

富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉  
保全状況報告書（案）

2018 年 月  
日本国



保全状況報告書；

富士山 信仰の対象と芸術の源泉（日本）( ID:1418 )

1．報告書の要約

2．世界遺産委員会決議への対応

3．資産の顕著な普遍的価値に影響を与える可能性があるとして認識しているその他の保全に関する問題

4．作業指針第 172 段に基づく、真実性・完全性を含む資産の顕著な普遍的価値に影響を与える可能性のある構成資産及び緩衝地帯において予定されている大規模な復元又は新規工事に関する説明

5．保全状況報告書へのパブリックアクセス

（ 「保存管理の実施状況」のとりまとめ後、文化庁中心に作成）



**「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉」  
保存管理の実施状況（案）**

2018年 月 日  
富士山世界文化遺産協議会



## 目次

<b>富士山ヴィジョンに基づく各種戦略の進捗状況</b>	<b>1</b>
<b>下方斜面における巡礼路の特定</b>	<b>5</b>
< 参考資料1 > 巡礼路の調査・研究	8
< 参考資料2 > 巡礼路を活用した周遊促進	17
<b>来訪者管理戦略</b>	<b>19</b>
< 参考資料3 > 「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた来訪者管理計画	23
< 参考資料4 > 登山者数に関する指標・水準の設定	28
<b>上方の登山道等の総合的な保全手法</b>	<b>37</b>
< 参考資料5 > 人工構造物の修景対策	39
< 参考資料6 > 山小屋整備ガイドラインの策定	42
<b>情報提供戦略(interpretation strategy)</b>	<b>45</b>
< 参考資料7 > 世界遺産センターの開設	49
< 参考資料8 > 富士の国づくりキッズ・スタディ・プログラムの実施	55
<b>危機管理戦略</b>	<b>57</b>
< 参考資料9 > 富士山火山噴火に伴う土砂災害からの被害軽減	60
<b>開発の制御</b>	<b>61</b>
< 参考資料10 > 富士山の景観保全に関する条例の制定	66
< 参考資料11 > 景観改善に関する取組	68
< 参考資料12 > 吉田口五合目の環境改善	71
< 参考資料13 > 三保松原の保全	73
< 参考資料14 > 北口本宮富士浅間神社周辺地域の整備	77
<b>経過観察指標(monitors)の拡充・強化</b>	<b>81</b>
< 参考資料15 > 2016年度経過観察指標に係る年次報告書(抄)	84



# 富士山ビジョンに基づく各種戦略の進捗状況

## 1 前文

- 2013年の第37回ユネスコ世界遺産委員会は、「富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉」(以下「富士山」という。)の世界遺産一覧表への記載決議(37COM 8 B.29)にあたり、我が国に対して将来的に保全状況をより良いものへと改善していく上での指摘・勧告を行い、2016年2月1日までに保全状況報告書を提出するよう要請した。
- 山梨県・静岡県及び関係市町村等を中心とした「富士山世界文化遺産協議会」は、神聖で美しい世界文化遺産富士山の姿を確実に守り、その周辺環境を含めより良い状態へと発展させる決意を込めて、2014年12月、『富士山 - 信仰の対象と芸術の源泉ビジョン<sup>1</sup>・各種戦略』(以下「ビジョン・各種戦略」という。)を策定した。
- 第40回ユネスコ世界遺産委員会は、富士山の保全状況審査の決議(40COM 7 B.39)において、策定した「ビジョン・各種戦略」等を高く評価するとともに、2018年12月1日までに、資産の保全状況及び実施状況に関する最新の報告書を提出するよう要請した。
- 本報告書は、決議への対応として、富士山世界文化遺産協議会が、「ビジョン・各種戦略」に基づき実施している保存・活用の施策の実施状況を整理し、その進捗状況を示すものである。

## 2 ビジョン・各種戦略の体系

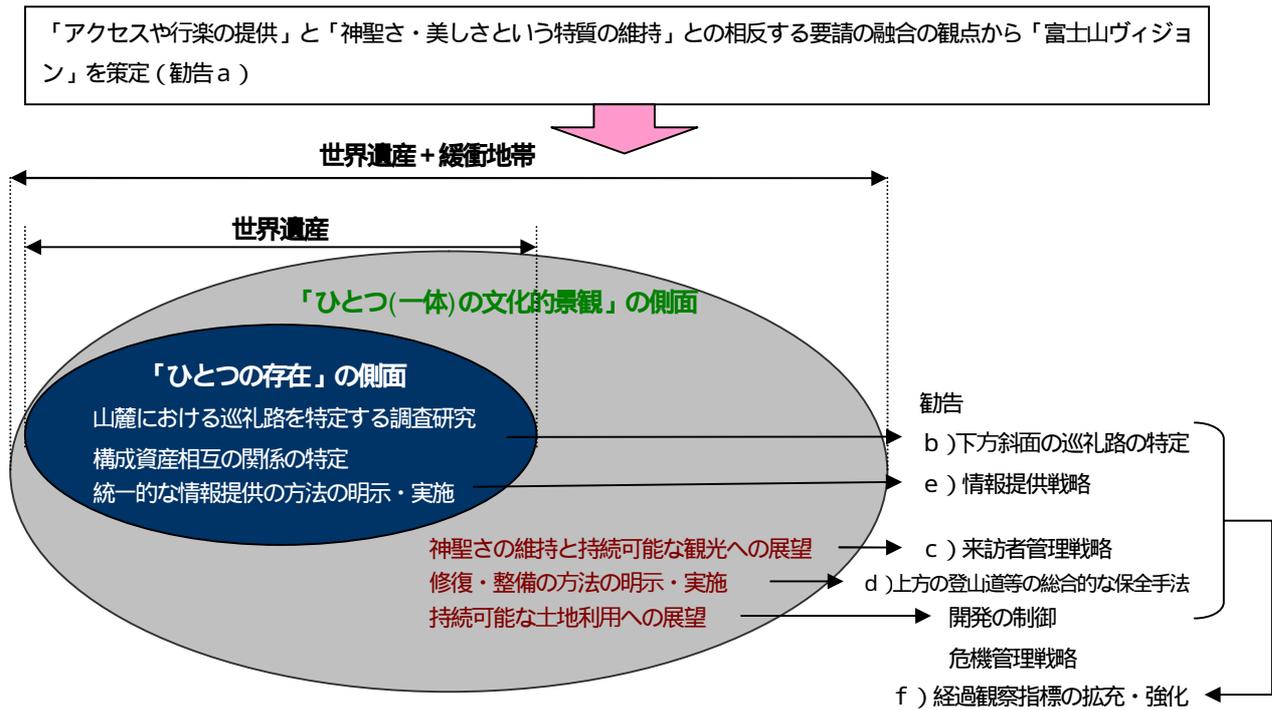
- 第37回ユネスコ世界遺産委員会は、決議(37COM 8 B.29)において、資産を「ひとつの存在」として、また、「ひとつ(一体)の文化的景観」として管理するための管理システムを実現するために、ビジョンの策定などa)~f)の6点を勧告した。さらに、「危機管理戦略の策定」を要請するとともに、「山麓における建築物等の規模・位置・配置に係るさらに厳しい規制」の必要性を指摘した。
- 「ビジョン・各種戦略」は、「アクセスや行楽の提供」と「神聖さ・美しさという特質の維持」という相反する要請を融合させるために、「ひとつの存在(an entity)<sup>3</sup>」及び「ひとつ(一体)の文化的景観(a cultural landscape)<sup>4</sup>」の2つの側面を踏まえて策定されたものである。
- 現在、実行されている「ビジョン・各種戦略」の構造・関係性は、以下のとおり整理される。

<sup>1</sup> ビジョンでは、地域社会が世界遺産の保存・活用に参画することを通じて、資産を「ひとつの存在(an entity)」及び「ひとつ(一体)の文化的景観(a cultural landscape)」として管理する方法・体系を運営可能な状態にするための方向性を示した。

<sup>2</sup> 各種戦略では、世界遺産委員会決議(37COM 8 B.29)で指摘された下方斜面の巡礼路の特定、来訪者管理戦略、上方の登山道等の総合的な保全手法、情報提供戦略、経過観察指標の拡充・強化、危機管理戦略、開発の制御の各項目について、それぞれ現状及び課題を整理した上で、適切な保存管理の方向性及び具体的な対策・実施スケジュールを示した。

<sup>3</sup> ひとつの存在(an entity)としての管理:25の構成資産の相互のつながりを明確化するとともに、芸術作品に基づく2つの展望地点(本栖湖北西岸の中ノ倉峠/三保松原)から富士山に対する良好な展望景観を維持するなど、一体的な管理を実施する。

<sup>4</sup> ひとつの文化的景観(a cultural landscape)としての管理:「アクセスや行楽の提供」と「神聖さ」「美しさ」の維持とを融合させ、構成資産のみならず緩衝地帯も含め、両者間の相反する課題を調和的に解決する。



### 3 実施状況

ビジョンの下に策定した各戦略・方法の進捗状況の概要は、以下に示すとおりである。なお、それらの詳細は、次章以降に示すこととする。

#### ➤ 下方斜面の巡礼路の特定

山梨県・静岡県「富士山世界遺産センター」を中心として、構成資産相互の歴史的なつながりを明らかにするため、巡礼路等に関する調査・研究を計画的に進め、その成果を情報提供戦略や来訪者管理戦略へ計画的・段階的に反映させている。(P5)

#### ➤ 情報提供戦略

巡礼路等の調査研究及び情報発信の拠点施設として整備を進めてきた山梨県・静岡県「富士山世界遺産センター」がそれぞれ開館し、調査・研究成果の蓄積や公開活用を積極的に行っている。また、来訪者が構成資産相互のつながり等に関する認知・理解を深められるよう、調査・研究成果を活用し、山麓の構成資産へ誘導する取組を進めている。(P45)

#### ➤ 来訪者管理戦略

「望ましい富士登山の在り方」<sup>5</sup>を実現するために、2019年を目標年とした指標・水準を設定し、目標水準の達成を目指した対策を実施している。このうち、登山者数については、登山の安全性・快適性を損なうような著しい混雑が恒常的に発生しているわけではないため、特定の日・時間帯・場所で限定的に発生している混雑を緩和する観点か

<sup>5</sup> 望ましい富士登山の在り方: 顕著な普遍的価値の側面を表す「神聖さ」「美しさ」の両面を維持発展させる観点から、「17世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承」、「登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持」、「登山の安全性・快適性の確保」の3点を定義した。

ら指標・水準を設定し、平準化や安全確保のための情報提供等の施策を展開することとしている。また、下方斜面の巡礼路の特定や情報提供戦略との連携の下、来訪者の山麓の構成資産への誘導又は周遊を促進している。(P19)

➤ 上方の登山道等の総合的な保全手法

登山行為による登山道への影響を抑制するため、指標に基づく来訪者管理を実施するとともに、周囲の自然環境や景観に配慮した材料・工法による登山道の維持補修や看板等の修景を行うなど、景観との調和に向けた取組を進めている。(P37)

➤ 開発の制御

山麓における建築物等の開発圧力に対しては、経過観察等を通じて早期把握に努めるなど、開発の制御の効果を促進している。また、イコモス評価書(WHC 13/37.COM/INF.8B1, ICOMOS Evaluations of Nominations of Cultural and Mixed Properties to the World Heritage List / Fujisan (Japan) NO.1418)において景観改善等の必要性を指摘された事項については、地域社会との合意形成に十分留意しつつ事業を進めており、計画的に改善が図られている。(P61)

➤ 危機管理戦略

自然災害等から、来訪者・住民の生命及び財産を保護するとともに、世界文化遺産の構成資産を適切に保存するため、地域防災計画を始めとした各種防災計画に基づく対策を進めている。(P57)

➤ 経過観察指標の拡充・強化

山梨県・静岡県及び関係市町村は、『世界文化遺産富士山包括的保存管理計画』に定めた観察指標に基づく経過観察を実施している。さらに、富士山世界文化遺産協議会は、観察結果を年次報告書として取りまとめの上評価し、各種施策が有効に実行されていることや資産及びその周辺に対する負の影響がないことを確認している。(P81)

以上のように、下方斜面の巡礼路の特定、情報提供戦略並びに来訪者管理戦略、上方の登山道等の総合的な保全手法、開発の制御の各項目に示した保存・活用の施策は、相互に分かちがたく結び付く部分を有しながら、着実に前進している。

さらに、各項目の実施状況を的確に把握するための経過観察指標の拡充・強化や、災害発生時における来訪者・住民への情報提供と深く結び付く危機管理戦略についても着実な前進が見られている。

したがって、資産全体を「ひとつの存在(an entity)」として、さらに資産のみならず緩衝地帯を含めた「ひとつ(一体)の文化的景観(a cultural landscape)」として管理する方法・体系は、運営可能な状態にあるものと認識している。



## 下方斜面における巡礼路の特定

### 1 要旨

- 山梨県・静岡県は、巡礼路の位置・経路の特定に加え、構成資産相互の歴史的な関係性を示すため、「富士山世界遺産センター」を中心として、関係市町村と連携を図りながら、巡礼路等に関する調査・研究を計画的に進めている。

  - ・山梨県総合学術調査研究報告書の刊行（2016年3月）
  - ・須走口登山道に関する調査研究報告書の刊行（2018年度内予定）
  - ・大宮・村山口登山道に関する調査研究の着手（2017年度開始）等

【参考資料1（P8）】
  
- 山梨県・静岡県は、来訪者が、『信仰の対象』と『芸術の源泉』の両面から構成資産相互のつながりを容易に認知・理解できるよう、調査・研究の成果を情報提供戦略や来訪者管理戦略へ計画的・段階的に反映させている。

  - ・富士山世界遺産センター等における企画展、シンポジウムなどの開催
  - ・調査研究成果を踏まえたパンフレットの作成、山麓の構成資産を巡るモデルコースやガイドツアーの設定等

【参考資料2（P17）】

### 2 戦略に記載した取組の方向性

#### （1）総合的な調査・研究の継続

##### ア 調査・研究の成果の取りまとめ

- ・これまで山梨県・静岡県及び関係市町村が個別に実施してきた調査・研究の成果を取りまとめ、今後、どのような調査・研究を行う必要があるのかを検討し、調査・研究の対象等を決定する。

##### イ 長期間にわたる調査・研究の継続

- ・長期間にわたり、古文書・絵図等の調査・分析、道路遺構の实地踏査・発掘調査等の調査・研究を計画的に実施し、その成果を系統的に取りまとめる。

##### ウ 調査・研究体制の確立・充実

- ・山梨県・静岡県及び関係市町村双方が、調査・研究体制を確立・充実を図る。

#### （2）情報提供戦略等への反映

- ・把握した「登山道・巡礼路の位置・経路」を、情報提供戦略に計画的・段階的に反映させる。

### 3 実施状況

#### (1) 総合的な調査・研究の継続

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>巡礼路に係る調査研究を実施し、関連資料の収集・把握・充実に努め、調査・研究の成果を集約する。</p>	<p>山梨県は、第2期富士山総合学術調査研究(2012～2015年度)として実施した、富士山周辺の巡礼路の特定に関する研究成果を「山梨県富士山総合学術調査研究報告書」にまとめ、2016年3月に発行した。</p> <p>静岡県は、2015年に「富士山巡礼路調査委員会」を設置し、須走口登山道の調査を小山町と連携して実施しており、2018年度に調査報告書を刊行する予定である。2017年度からは、大宮・村山口登山道の調査にも着手している。</p>
<p>関係市町村が実施する調査・研究を集約し、必要に応じて指導・助言を行う。</p>	<p>山梨県は、関係市町村の文化財担当者を山梨県富士山総合学術調査研究調査員に委嘱し、市町村による調査・研究の成果を逐次集約している。</p> <p>静岡県は、専任の研究員が随時指導・助言を行うほか、関係10市町と連絡会を開催し、調査・研究など様々な項目について意見交換を実施している。</p>
<p>富士山世界遺産センターを中心とした調査・研究体制を充実させる。</p>	<p>山梨県は、山梨県富士山総合学術調査研究として、学芸員を中心に外部研究者と共同で富士山に関する調査・研究を継続して進めている。</p> <p>静岡県は、専任の研究員を中心として、巡礼路を始めとした富士山に関する調査・研究を進めている。</p>

(2) 情報提供戦略等への反映

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>世界遺産ガイド等を養成し、パンフレット等を作成・活用するなど、効果的な情報提供手法を確立する。</p>	<p>山梨県・静岡県は、世界遺産ガイドのスキルアップを図るため、定期的に講座を開催している。また、巡礼路に関して、山梨県では、富士山世界遺産センターを中心に情報提供を実施し、静岡県では、調査結果を報告書に取りまとめるほか、シンポジウムの開催を予定している。</p>
<p>学習講座を実施するとともに、博物館・美術館等における企画展・研究発表会等を開催する。</p>	<p>山梨県は、これまでの巡礼路に関する調査研究の成果を一般に広く紹介するため、山梨県立富士山世界遺産センターにおいて、企画展「探訪 富士山巡礼路」を2017年1月から2月に開催するなど、企画展・写真展を通じた情報提供に取り組んでいる。また、世界遺産富士山講座や富士山総合学術調査研究シンポジウムの実施、研究紀要等の刊行を行っている。</p> <p>静岡県は、2015年度から実施している須走口登山道の調査研究成果を一般に広く紹介するため、2018年度にセミナーの開催を予定しているほか、研究員が実施している様々な調査研究成果を広く紹介するため、2017年度には、市町と共催による富士山世界遺産セミナーや、国内外の研究者を招聘した国際シンポジウム等の開催、「富士山の曼荼羅」と題した開館記念の企画展の開催及び英文誌の刊行等、様々な事業に取り組んでいる。</p>
<p>「登山道・巡礼路の位置・経路」に基づき、案内板・道標などの来訪者を誘導する方法を検討し、潜在化したルートを顕在化する。</p>	<p>山梨県・静岡県は、下方斜面における巡礼路の特定に関する調査・研究成果に着目し、「登山道・巡礼路の位置・経路」を踏まえ、山麓の構成資産を巡るモデルコースやガイドツアーの設定を行い、富士山麓への周遊を推進している。</p>

## < 参考資料 1 > 巡礼路の調査・研究

### 概要

静岡県は、これまで総合調査が実施されていない登山道及び山麓の構成資産間を結ぶ巡礼路の研究計画を策定するとともに、巡礼路等の調査を実施するため、2015年に考古学、歴史学、民俗学、美術史といった各分野の学識者で構成される「富士山巡礼路調査委員会」を設置した。

2015年から2018年度にかけては、小山町との連携の下に、須走口登山道の調査を実施し、2017年度からは、富士市及び富士宮市との連携の下に、大宮・村山口登山道の調査を開始している。

なお、調査結果は、報告書として取りまとめるほか、シンポジウムの開催や富士山世界遺産センターの企画展等で紹介するなど、情報提供戦略へと適切に反映させることとしている。

また山梨県は、富士山をめぐる自然と人との関わりを総合的に調査・研究する山梨県富士山総合学術調査研究を2008年から実施し、第2期（2012～2015年度）では、富士山周辺の巡礼路の特定を通じた各構成資産間の結びつきに関する研究を実施した。

さらに、2016年度から開始した第3期は、山梨県立富士山世界遺産センターが中心となり、「富士山文化の広がりに関する調査研究」をテーマとして、構成資産や巡礼路を拠点とした富士山の信仰文化の各地への普及・定着の変遷に関する研究を行う中で、巡礼路の未特定区間に関する調査・研究も継続実施している。

### 取組内容

#### (1) 須走口登山道

##### ア 調査内容（2015年度～2018年度）

静岡県は、文献収集（研究論文・刊行物等）、資料収集（歴史資料：古文書・古記録、民俗資料：古写真・絵葉書・信仰用具・御札類など）、旧御師や山小屋経営者などへの聞き取り調査、登山道の現地踏査、施設跡の測量などの方法により、考古、歴史、民俗、美術の各分野ごとに、須走口登山道の経路・位置の描出や須走地区の歴史的な背景について、調査研究を計画的に進めてきた。調査結果については、2018年度中に調査報告書として取りまとめるほか、シンポジウム等で情報発信を行う予定である。



須走口登山道における現地踏査



御殿場市宝持院での富士山下山仏調査

年度別・区分別調査概要

区分	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
考古	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤色立体地図等を利用して、馬返～古御嶽神社間の現地踏査でGPSデータを採取し、登山道経路を確認し、調査図面に反映。</li> <li>登山道沿いの施設跡や石造物等の確認調査。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>赤色立体地図等を利用して、山頂～古御嶽神社・馬返～野中神社(旧大日堂)間の現地踏査でGPSデータを採取し、登山道経路を確認し、調査図面に反映。</li> <li>登山道沿いの施設跡や石造物等の測量図面の作成。</li> <li>懸仏2体の実測図面作成。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各分野の補足調査を実施(旧御師伝来の民俗資料の調査、御殿場市内の宝持院・久成寺に伝来する富士山下山仏の調査など)。</li> <li>報告書原稿の執筆。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>報告書の編集・刊行作業。</li> <li>企画展・シンポジウム等の開催。</li> </ul>
歴史	<ul style="list-style-type: none"> <li>小山町史編纂時に製作した須走口登山道に関わる古文書・古記録のマイクロフィルムのデジタルデータ化を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>須走口登山道に関わる古文書・古記録の写真撮影。</li> <li>須走口登山道に関わる古文書・古記録の活字翻刻。</li> </ul>		
民俗	<ul style="list-style-type: none"> <li>須走口登山道に関わる旧御師や山小屋経営者への聞き取り調査、および民俗関係資料の写真撮影。</li> <li>富士浅間神社境内の石造物調査。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>須走口登山道に関わる旧御師や山小屋経営者への聞き取り調査、および民俗関係資料の写真撮影。</li> <li>野中神社(旧大日堂)の祭礼調査。</li> </ul>		
美術	<ul style="list-style-type: none"> <li>裾野市内の車返霊場に伝来の富士山下山仏の調査。</li> <li>小山町立図書館所蔵の須走口登山道に関わるコレクション資料の調査。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>御殿場市内の大雲院・宝持院に伝来する須走地区旧蔵および富士山下山仏の調査。</li> </ul>		



凡例	
	須走ルート(登山道)
	旧登山道
	旧登山道(推定)
	トラクター道
	その他登山道
	陸地測量部20万分の1地図明治20年測量(登山道)
	地点(調査位置)
	山小屋
	歴史的建造物
	道の駅
	行政界



調査箇所

## イ 調査成果の概要

須走口登山道の調査成果の概要を以下に示す。

- 1887年測量の陸地測量部製作地形図や赤色立体地図等をもとに現地踏査を実施した際に取得したGPSデータから、須走口の起点となる富士浅間神社から終点となる富士山頂までの経路を描出した登山道経路の図面を製作した。この図面は、これまで未調査の経路区間であった富士浅間神社から古御嶽神社間の経路も含むものである。
- 現地踏査によって明らかになった登山道沿いに現在も残る石造物や施設跡について調査を行い、将来に伝えていくための実測図面を製作した。
- 須走口登山道に関わる歴史資料、民俗資料を分析することにより、須走口登山道が果たしてきた歴史的な背景や登山道の利用状況などについて考察を行った。
- その他、須走口登山道に関わる資料群について、新たな資料の発見・把握と現状の伝来状況について確認することができた。

## (2) 大宮・村山口登山道

静岡県は、須走口登山道と同様に、富士山巡礼路調査委員会において策定した研究計画に基づき現地踏査、資料調査などを計画的に進め、その成果を報告書として刊行するとともに、シンポジウム等を開催し、積極的に情報発信を行う予定である。

2017 年度	2018 年度及び 2019 年度	2020 年度
現地調査用図面の作成 →	本調査（現地踏査、資料調査） → 現地測量（石造物・施設跡） →	補足調査 → 調査報告書の編集・刊行 → シンポジウム開催 →

## (3) 御中道

### ア 調査内容

御中道は、富士山の中腹を周廻する巡拝路であり、富士講の修行の中で次第に固定化され、発展してきたが、幾筋もの沢を越えて進むため、各年代で大きく変遷してきたとみられる。

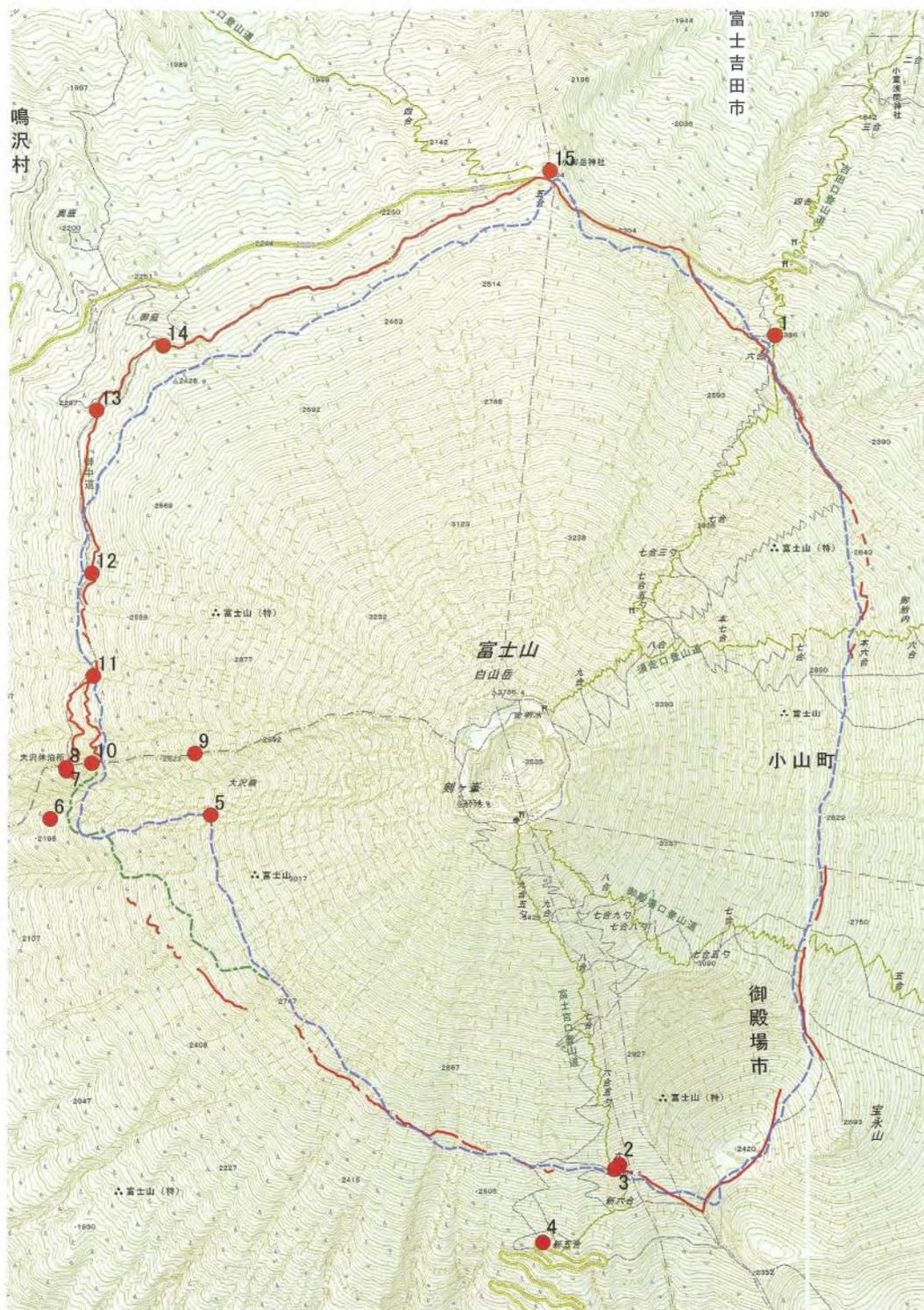
山梨県及び静岡県は、文献収集（研究論文・刊行物等）、資料収集（歴史資料：古文書・古記録、民俗資料：古写真・絵葉書・奉納物・御札類など）、登山道の現地踏査、施設や石造物等の調査などにより、御中道の経路・位置の描出やその変遷について、調査研究を進めてきた。

これまでの調査結果については、2017 年度発行の「山梨県立富士山世界遺産センター研究紀要」に取りまとめた。

### イ 調査成果の概要

御中道の調査成果の概要を以下に示す。

- 最新の国土地理院発行の電子地形図を基本に、1887 年測量の陸地測量部製作地形図、1928 年測量の地形図等を重ね合わせるとともに、現地踏査の情報を加味して赤色立体地図を判読し、御中道のルートを図に示した（P12 参照）。
- このうち、大宮・村山口から大沢に至る部分は、道の変遷が見られ、特に御中道の行程の中で最大の難所とされる大沢崩を渡る越場は大きく変遷しており、各種文献などから、かつて利用されていた、標高 2800m 付近の「一ノ越」は、大沢の崩落の影響で 19 世紀初めには利用できなくなっていたものとみられ、近代以降に「二ノ越」、「三ノ越」と呼ばれる越場につながる経路が開かれたとみられる。



凡例

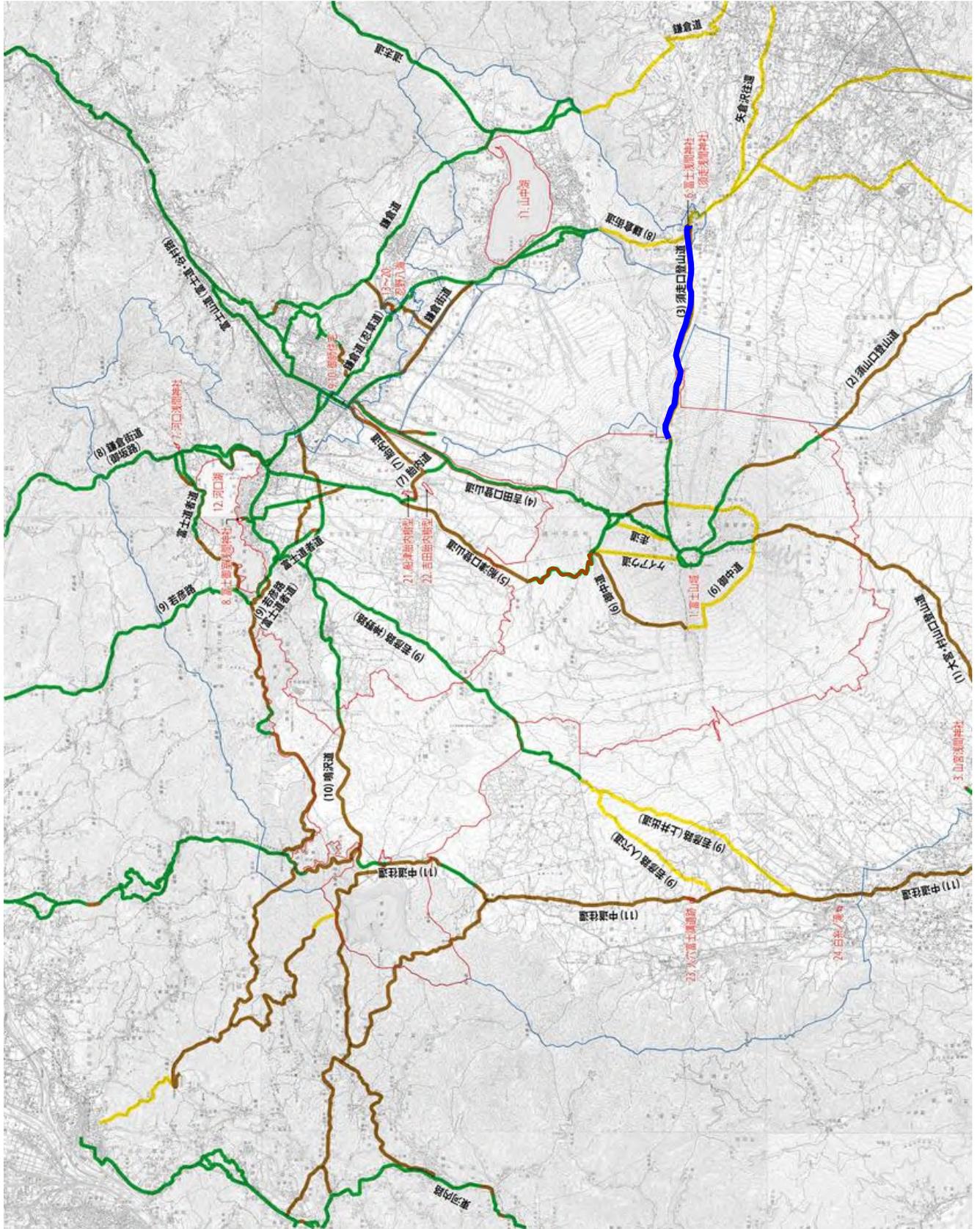
- 明治20年測量の二万分の1地形図から判読した道
- 昭和3年測量の二万五千分の1地形図から判読した道
- 赤色立体地形図から判読した道跡

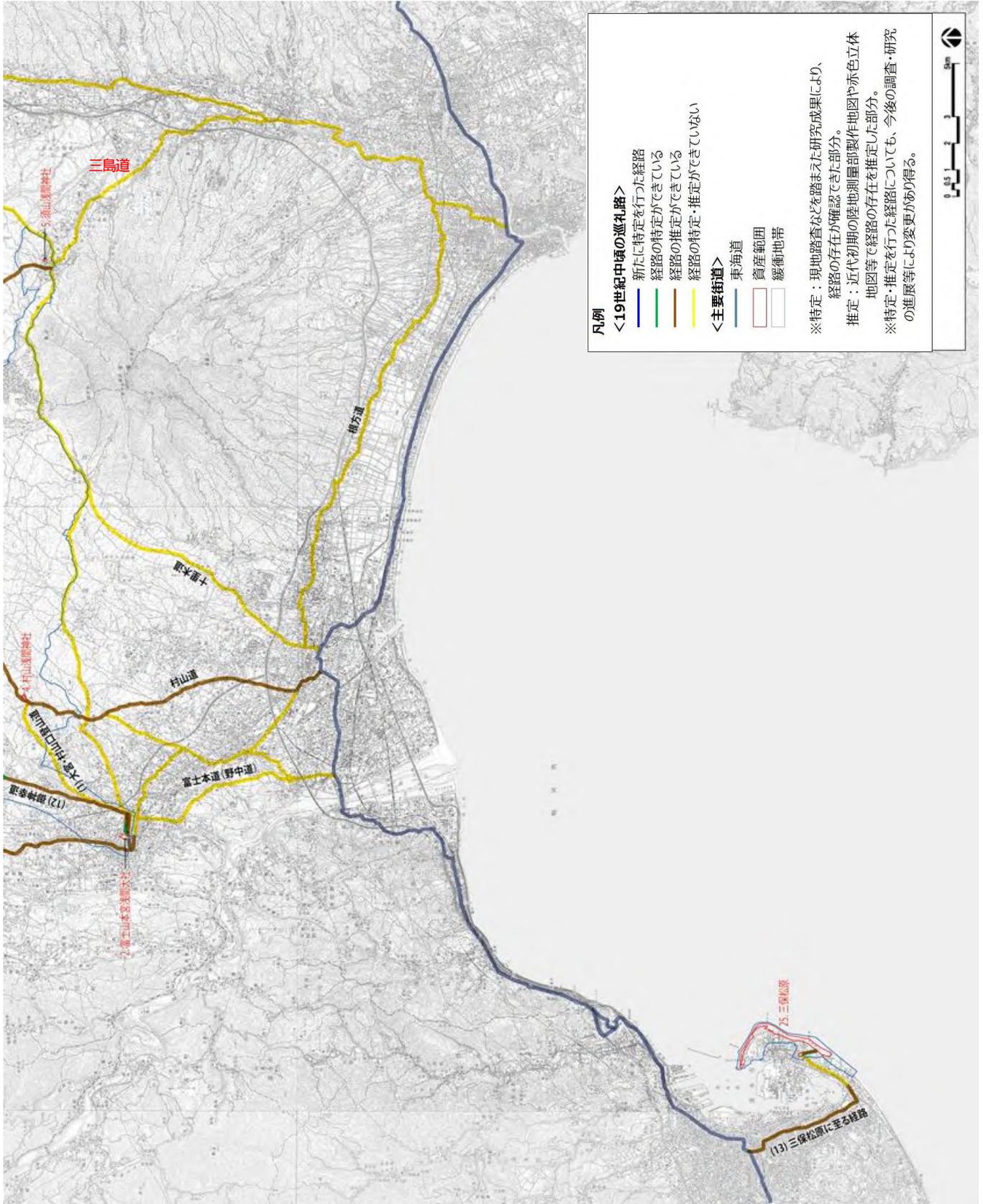
0 500 1000 m



御中道調査地図（「山梨県立富士山世界遺産センター 研究紀要」2017）







19世紀中頃の巡礼路経路図

## 今後の取組（計画）

当面は、須走口登山道の調査結果について、情報提供戦略へと適切に反映させるとともに、大宮・村山口登山道の調査を計画的に進めていく。

さらに、中・長期的には、山麓及び山腹の構成資産間を結ぶ巡礼路のうち、富士山頂へと至る登山道を中心に、主要街道から派生する巡礼路についても、順次計画的に調査・研究を進めていくこととする。

今後の巡礼路調査の対象として検討中の登山道・巡礼路の例

経路		概要
すやまくちとざんどう 須山口登山道	裾野市	須山浅間神社から富士山頂へと至る登山道。
みしまみち 三島道	裾野市、三島市	東海道三島宿と須山口登山道の須山浅間神社を結ぶ。
じゅうりぎみち すやまみち 十里木道（須山道）	富士市、裾野市	東海道吉原宿から裾野市の十里木地区を通り須山地区へ至り、さらに須山地区（小山町）までを結ぶルート。
ねがたみち 根方道	富士市、沼津市	東海道吉原宿と沼津市岡宮浅間神社付近を結ぶ。
やくらさわおうかん おおやまみち 矢倉沢往還（大古道）	小山町、御殿場市、裾野市、長泉町、沼津市	相模国から足柄峠を越えて、竹之下（小山町）へ至り、東海道沼津宿へ至るルート。
かまくらかいどう みさかし 鎌倉街道（御坂路）	山中湖村、小山町	山中湖から県境を籠坂峠を越えて、須山地区（小山町）へ至るルート。
かまくらみち 鎌倉道	山中湖村、忍野村、小山町、御殿場市	山中湖から県境を三国峠を越えて、古沢（御殿場市）地区へ至り、矢倉沢往還に合流するルート。
ごじんこうみち 御神幸道	富士宮市	富士山本宮浅間大社と山宮浅間神社を終点で結ぶ毎年4月と11月の山宮御神幸の際の巡行道。
なかみちおうかん 中道往還	富士河口湖町、富士宮市	富士山の西麓を経由して、甲府盆地と東海道吉原宿（富士市）とを結んだ古代以来の主要道。
わかひこじ ひとあなみち かみいでみち 若彦路（人穴道・上井出道）	富士河口湖町、鳴沢村、富士宮市	精進湖・本栖湖から人穴・上井出（富士宮市）を経て、富士宮市の大宮町へ向かうルート。
おちゅうどう 御中道	鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市、山中湖村、小山町、御殿場市、裾野市、富士宮市	富士山の山腹の標高2100m～2800m付近を横へ一周する。幾筋もの沢筋をまたがるため各年代で変遷が多い。
みほのまつばら 三保松原に至る経路	静岡市	東海道江尻宿から駒越村まで久能山道を通り、そこから三保半島中程の御穂神社まで至るルート。
たいたいみち えちごみち むらみち 胎内道（越後道・室道）	富士吉田市、富士河口湖町	吉田口登山道の中ノ茶屋から吉田胎内樹型、船津胎内樹型に至る巡礼路。
なるさわみち 鳴沢道	鳴沢村、富士河口湖町、富士吉田市	本栖湖・精進湖から青木ヶ原樹海を横断し、鳴沢村を経由して上吉田（富士吉田市）へ向かう巡礼路。
うちはっかいみち 内八海道	富士吉田市、富士河口湖町、身延町、山中湖村	山麓の8つの湖沼（西湖・精進湖・本栖湖・山中湖・河口湖・泉瑞・明見湖・四尾連湖）を巡るルート（航路を含む）。

## < 参考資料 2 > 巡礼路を活用した周遊促進

### 概要

- ・登山者及び来訪者に構成資産相互のつながりを認知・理解してもらうため、巡礼路に関する調査・研究の成果に基づき特定または推定された巡礼路等を活用し、山麓の神社や霊地を巡るモデルコースの設定や巡礼者の受け入れ環境の整備などを行う。

### 取組内容

- ・山梨県は、プロジェクト推進のため、市町村、構成資産所有者及び観光団体等で構成する組織を設置し、モデルコースの設定及びそれらを紹介するガイドマップの作成を行った。また、旅行会社担当者の視察受け入れ等を通じた旅行商品造成支援や「行衣」、「御朱印帳」などのグッズの開発・販売支援等を行っている。

【かつての巡礼者が辿った巡礼路・構成資産の周遊(例)】



富士講信者が宿泊した「御師住宅」

登山前には水で身を清めた伝統に倣い、様々な水場を巡る



生まれ変わりを疑似体験する「胎内樹型」をはじめ、富士山の自然が生み出した様々な霊場を巡る

登山の成功を祈った「浅間神社」

山麓から続く「登山道」を辿る

【周遊を支援する施設、ガイド、ツール】



ガイドンス施設  
(世界遺産センター)

ガイドツアー

宿泊施設

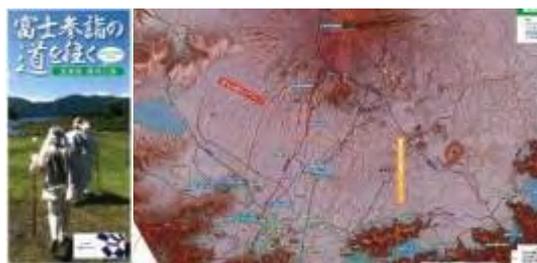
御師料理



行衣



御朱印・御朱印帳



ガイドパンフレット（モデルコース、解説）

・静岡県は、構成資産の歴史的つながりと巡礼路の変遷の理解促進などのため、様々なテーマごとにモデルコースを設定し、旅行会社に積極的にPRするとともに、ホームページを通じて幅広く情報提供している。2017年には、静岡県富士山世界遺産センターや周辺の構成資産を周遊する旅行会社向けモニターツアーを開催した。

モデルコース①「噴火と遥拝」 自然と富士山の偉大なる力を体感コース 1/2



山宮浅間神社（鉢立石）



白糸の滝



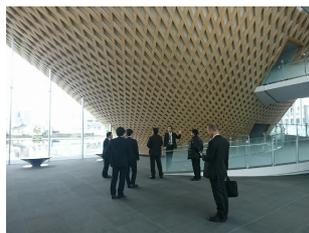
富士山本宮浅間大社（鉢立石）



静岡県富士山世界遺産センター

コース特徴	世界文化遺産「富士山」の構成資産を巡るとともに、自然・水・参拝・ニュースポット(静岡県富士山世界遺産センター（平成29年12月23日開館))等の要素で構成されたコース
<p>日帰りコース 日程</p> <p>行程表の表示                  ..... 主に徒歩による移動を想定                  ===== 車等による移動を想定</p>	<p>各地=====山宮浅間神社（社殿を持たない神社・遥拝所・鉢立石）=====                  ※富士山を直接遥拝する遥拝所がある神社</p> <p>=====白糸の滝（名水百選・富士講の祖・長谷川角行修行の地）=====                  ※雄大な富士山の雪解け水が流れ落ちる、いにしへの修験者の修行の地</p> <p>=富士山本宮浅間大社（全国1300余りの浅間神社の総本山・湧玉池・鉢立石）…                  ※古代の噴火を鎮めたと言われる神社と、その溶岩の間から湧く、美しい湧き水の池</p> <p>……静岡県富士山世界遺産センター……お宮横丁                  ※1階から5階を繋ぐ螺旋スロープの壁面には、富士登山をイメージできるような映像を見ながら、疑似登山体験が可能</p>
キーワード「噴火と遥拝」	古来、富士山麓では、富士山に対する展望を意識して集落や祭祀の場が形成されていました。8世紀から9世紀頃、人々は度重なる噴火を、火の神「浅間大神」の怒りと考えました。それを鎮めるために山麓から山頂を仰ぎ見て崇拜する「遥拝」の習慣が生まれ、各地に遥拝所（このコースでは、山宮浅間神社）が設けられました。
移動手段例	マイカー／周遊バス

webサイトにおけるモデルコース紹介の例（静岡県）



旅行会社向けモニターツアー

## 来訪者管理戦略

### 1 要旨

- 山梨県・静岡県は、来訪者管理の目標として定めた「望ましい富士登山の在り方」を実現するために、2015年～2017年の3年間に実施した調査研究結果に基づく指標及び水準を設定するとともに、水準の達成を目指した対策を実施している。
  - ・登山者動態調査・意識調査等の実施及び結果の分析（2015年～2017年）
  - ・2019年を目標とした11項目の指標及び水準の設定、水準達成に必要な対策の実施
  - ・目標最終年（2019年）に対策及び指標等の評価・見直しを予定（以降概ね5年毎に実施予定）

【参考資料3（P23）、参考資料4（P28）】

- 山梨県・静岡県は、上方の登山道において、特定の日・時間帯・箇所に集中する登山者数の平準化や登山者の安全確保のための情報提供等の対策を中心に実施している。また、山麓地域においては、下方斜面の巡礼路の特定や情報提供戦略との連携の下、来訪者の山麓の構成資産等への誘導又は周遊を推進し、構成資産相互のつながりや顕著な普遍的価値に関する来訪者の認知・理解を促進している。
  - ・混雑予想カレンダー等の作成、マイカー規制の継続、安全誘導員等の配置
  - ・モデルコース・ガイドツアーの設定、周遊ガイドマップ等の作成・配付 等

【参考資料2（P17）[再掲]】

### 2 戦略に記載した取組の方向性

#### （1）望ましい富士登山の在り方に基づく収容力の研究・指標の設定

将来にわたる富士山の保存と活用の調和を図る観点から、専門家の助言を得つつ、「上方の登山道の収容力」を中心とした調査研究を実施する。さらに、地元関係者等との協議の下、登山の文化的伝統の継承、展望景観の維持、登山の安全性と快適性の確保（登山者数を含む）の視点に基づく多角的な視点からの複数の指標と指標ごとに望ましい水準を設定する。

#### （2）施策の実施

富士山の保全に取り組む企業・団体・地元関係者等の連携の下に「望ましい富士登山の在り方」を実現するため、指標ごとに定めた望ましい水準の達成を目的として、上方の登山道に着目しつつ、山麓地域を包含した施策を実施する。

#### （3）施策・指標の見直し

実施した施策、設定した指標と指標ごとの望ましい水準について、評価・見直しを定期的に実施する。

### 3 望ましい富士登山の在り方に基づく実施状況

#### (1) 収容力の研究・指標の設定

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
2015年から2017年の3年間の調査研究結果を踏まえ、2018年7月までに、登山道ごとの1日当たりの登山者数を含め、複数の指標と指標ごとの望ましい水準を設定する。	3年間の収容力に関する調査研究を実施するとともに、望ましい富士登山の在り方の3つの視点ごとに、合計11項目の指標及びその目標水準を設定する。  さらに、今後、必要な施策を推進するとともに、継続的にモニタリングを実施し、適切な来訪者管理を行う。

#### (2) 施策の実施

##### ア 上方の登山道

特定の日・時間帯に山頂付近に集中する登山者数の平準化の推進

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
山麓の駐車場と五合目との間のシャトルバスの最終発車時間を見直すこと。	山梨県・静岡県は、マイカー規制期間中に運行するシャトルバスの山麓からの最終発車時間を段階的に見直し、2016年に全日20時までに前倒しした。
山麓からの登山を推奨すること。	富士吉田市は、「山麓からの登山」を推奨するため、情報提供を強化している。
下方斜面における巡礼路に関する調査・研究の成果に基づき、山麓の構成資産への訪問を誘導すること。	山梨県・静岡県は、下方斜面における巡礼路の特定に関する調査・研究成果に着目し、「登山道・巡礼路の位置・経路」を踏まえ、山麓の構成資産を巡るモデルコースやガイドツアーの設定を行い、富士山麓への周遊を推進している。(再掲)

## 普及啓発の推進

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
安全・安心な登山を行うための情報提供、マナー啓発等を行うこと。	山梨県・静岡県は、宿泊を伴わない夜通し登山の自粛要請やマナー啓発、安全・安心な登山を行うための情報提供を継続して行っており、2017年は新たに登山日毎の混雑予想を掲載したカレンダーを作成し広報することで、登山者数の平準化に取り組んでいる。
「富士登山の観光・安全総合情報システム」を構築すること。	山梨県・静岡県は、登山計画の提出を促すため、日本山岳ガイド協会が運営するアプリ「コンパス」の利用啓発に努めている。  静岡県は、「富士登山の観光・安全総合情報システム」として、観光アプリ「富士山ぐるぐる旅行」を構築し、「コンパス」との連携により、登山届の提出に加え、富士山周辺の観光情報や防災情報の提供に努めている。

## 自家用車の通行規制

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
自家用車の通行規制を行うこと。	静岡県は、ふじあざみライン（須走口）において、2016年からマイカー規制期間を47日から63日間に拡大し、富士山スカイライン（富士宮口）と期間を統一し、開山期間全日実施している。  山梨県は、富士スバルライン（吉田口）において2017年のマイカー規制期間を53日から63日間に拡大した。

## 利用者負担の実施

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
登山者からの任意の協力を求める「富士山保全協力金」を着実に実施し、環境保全、安全対策等を図る事業を推進すること。	山梨県・静岡県は、「富士山保全協力金」への理解を促進するため、インターネットやシャトルバス内での事前案内を強化するとともに、現地での受付体制の見直しを行っている。

## トイレの適切な維持管理

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
上方の登山道のトイレの適切な維持管理を推進すること。	環境省及び山梨県・静岡県は、トイレの処理能力に関する調査を実施しており、静岡県では、保全協力金を活用した補助制度により老朽化した設備の改修を行うなど、トイレの適切な維持管理を進めている。

## イ 山麓地域

## 山麓の構成資産への訪問の誘導

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
下方斜面の巡礼路の特定により、来訪者を山麓の構成資産へ誘導すること。	山梨県・静岡県は、下方斜面における巡礼路の特定に関する調査・研究成果に着目し、「登山道・巡礼路の位置・経路」を踏まえ、山麓の構成資産を巡るモデルコースやガイドツアーの設定を行い、富士山麓への周遊を推進している。(再掲)

## 山麓地域への周遊の推進

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
富士山麓地域の魅力を味わい体験してもらうため、来訪者の富士山麓への周遊を推進すること。	山梨県・静岡県は、下方斜面における巡礼路の特定に関する調査・研究成果に着目し、「登山道・巡礼路の位置・経路」を踏まえ、山麓の構成資産を巡るモデルコースやガイドツアーの設定を行い、富士山麓への周遊を推進している。(再掲)
構成資産間のつながりや顕著な普遍的価値について来訪者の認知・理解を促進すること。	山梨県・静岡県は、ガイドブックやホームページなどの広報媒体を通じた情報発信及びガイド等による案内を継続して実施している。

## < 参考資料 3 > 「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた来訪者管理計画

### 来訪者管理戦略（2016年1月 ユネスコ世界遺産センターへ提出）

- 来訪者管理の目標として「望ましい富士登山の在り方」( 登山の文化的伝統の継承、展望景観の維持、登山の安全性・快適性の確保 ) を定義。
- 「望ましい富士登山の在り方」を実現するために、指標を設け<sup>\*1</sup> ( PLAN ) 対策を実施し ( DO ) 2015 年を起点として、概ね 5 年ごとに 指標・対策の評価 ( CHECK ) ・ 見直し ( ACTION ) を実施。

\*1 2015 年～2017 年の 3 年間の調査研究結果に基づき、指標・水準、対策等を示した実施計画を策定。

### 実施計画

#### 1 調査研究結果の概要

登山者の意識	登山者の動態
<ul style="list-style-type: none"> <li>• 「人の多さが許容できない」、「危険を感じた」割合は登山者数に比例して増加する傾向。</li> <li>• 「総合満足度」、「神聖さを感じた」等は登山者数に関係なく一定割合存在。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 登山期間中、限られた日 [ 週末・お盆 ] ・時間帯 [ 御来光前後 ] ・箇所 [ 吉田・須走口合流地点 ( 本八合目 ) より上方及び富士宮口山頂付近 ] において、登山者の集中に起因する著しい混雑が発生。</li> </ul>

#### 2 計画期間

「望ましい富士登山の在り方」の実現を長期目標としつつ、来訪者管理戦略を策定した 2015 年を起点とした 5 年間 ( 2019 年まで ) を計画期間とする。

特に、登山の安全性・快適性を確保する観点から、極めて限定的に発生している著しい混雑の解消を図ることを当面の重点目標とする。

#### 3 指標・水準の設定

##### ( 1 ) 選定基準

指標	「望ましい富士登山の在り方」の実現につながり、変化を容易に確認できること。など
水準	定量的な指標は、 <u>現状値から 10% 程度の改善</u> を目指す。 など

(2)「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた指標・水準

望ましい富士登山の在り方		指標	登山口	現状			水準 (2019年の 目標値)	モニタリング 方法
視点	区分			2015	2016	2017		
十七世紀以来の登拝に起源する登山の文化的伝統の継承	頂上付近で御来光を拝む場合には、途中の山小屋で宿泊・休憩していること	伝統的な登拝の登山形態と同様に、山小屋で休息してから山頂で御来光を拝む登山者の割合	全体	69.0%	68.2%	77.7%	80%以上	登山者アンケート [分母は山頂で御来光を拝んだ(見た)登山者数]
	特定された山麓の巡礼路・登山道からの登山が行われていること	古くからの巡礼路としてルートが特定されている吉田口登山道における山麓からの登山者の割合	吉田	11.9%	13.7%	12.4%	15%以上	吉田口五合目登山者数カウント [分母は吉田口八合目登山者数カウント]
	山麓の神社・霊地等と登山道とのつながりが認知・理解されていること	山麓の神社や湖などを巡ったのちに富士登山をする文化的伝統を知っている登山者の割合	全体	32.9%	39.0%	47.0%	50%以上	登山者アンケート [以前から知っていた/今回の登山・訪問で知った人の割合]
		富士山に「神聖さ」を感じた登山者の割合	全体	83.0%	88.2%	85.9%	90%以上	登山者アンケート [感じた/少し感じた人の割合]
登山道及び山頂付近の良好な展望景観の維持	山小屋・防災関連の施設等の登山者のための施設が自然と調和していること	自然と調和しない人工構造物による登山道沿いの景観阻害	全体	-	-	-	非調和的要素が予見又は発見されない	文化財パトロール・レンジャーによる視認 文化財保護法・自然公園法の現状変更申請
	浸食・植生等の変化による展望景観への影響が抑制されていること	五合目以上における登山道の浸食や植生等の変化による展望景観の変化	全体	-	-	-	負の影響が予見又は確認されない	各登山口五合目から山体を観察

参考資料3 > 「望ましい富士登山の在り方」の実現に向けた来訪者管理計画

望ましい富士登山の在り方		指標	登山口	現状			水準 (2019年の 目標値)	モニタリング 方法
視点	区分			2015	2016	2017		
登山の安全性・快適性の確保	登山装備・登山マナー等が理解されていること	登山道や山頂付近でゴミをよく見かけた登山者の割合	全体	-	26.8%	19.6%	15%以下	登山者アンケート
		人的要因による文化財き損届の件数	全体	1件	0件	2件	0件	特別名勝・史跡富士山に係る文化財き損届(五合目以上)
	過剰な登山者数による混雑・危険・不満を感じない登山ができること	吉田口から登山し、誤って須走口に下山した人の割合(須走口五合目ガイド対応分)	吉田須走	0.72% (981人)	0.48% (731人)	0.54% (928人)	0.4%以下	須走口五合目ガイド対応者数 [分母は吉田口八合目登山者数カウント]
		山小屋やトイレなどの登山者への支援施設に不満を感じた登山者の割合	全体	-	19.1%	19.3%	15%以下	登山者アンケート [とても不満/やや不満の割合] (現状値はトイレへの不満の最大値)
		夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日* <sup>1</sup> を超えた日数	吉田	4日	4日	5日	3日以下	八合目登山者数カウント 登山者アンケート [混雑の許容度・危険を感じた割合等]
			富士宮	3日	2日	4日	2日以下	
	御殿場		-	-	-	-		
	須走		-	-	-	-		
* <sup>1</sup> 吉田口:4,000人/日 富士宮口:2,000人/日								

登山者数に関する指標・水準の設定については、参考資料4に詳述する。

### 3 対策の実施

#### (1) 主に「登山の文化的伝統の継承」の実現に資する対策の例

山麓からの登山の推奨	山麓の構成資産の周遊促進
[案内所等の運営 など]	[体験ツアーの実施 など]
	

#### (2) 主に「展望景観の維持」の実現に資する対策の例

人工構造物の修景手法の検討	外来植物の侵入防止
[落石防護壁の修景 など]	[種子の防除マット・ブラシの設置 など]
	

#### (3) 主に「登山の安全性・快適性の確保」の実現に資する対策の例

平準化に向けた情報提供	安全誘導員等の配置																																										
[混雑予想カレンダー など]	[登山者の誘導 など]																																										
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="300 1335 544 1581"> <p><b>混雑予想カレンダー</b></p> <p>7月</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>8</td></tr> <tr><td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14</td><td>15</td></tr> <tr><td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20</td><td>21</td><td>22</td></tr> <tr><td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr><td>30</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table> </div> <div data-bbox="560 1335 791 1581"> <p>混雑日の予想(AM4:00頃)</p>  </div> </div>	日	月	火	水	木	金	土	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31						
日	月	火	水	木	金	土																																					
2	3	4	5	6	7	8																																					
9	10	11	12	13	14	15																																					
16	17	18	19	20	21	22																																					
23	24	25	26	27	28	29																																					
30	31																																										
[シャトルバスの運行時間の見直し など]	[マイカー規制期間の見直し]																																										
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="328 1832 459 1966">  </div> <div data-bbox="491 1733 769 1966">  </div> </div>																																											

#### 4 指標・対策の評価・見直しの実施

- モニタリングは、機器や人件費に過度な経費を必要とせず、継続的に実施可能な方法を採用。

モニタリング方法	周期
アンケート調査、登山者数調査、現地職員による記録、法的手続きの届出件数、景観変化の観察	毎年
登山者動態調査	概ね5年

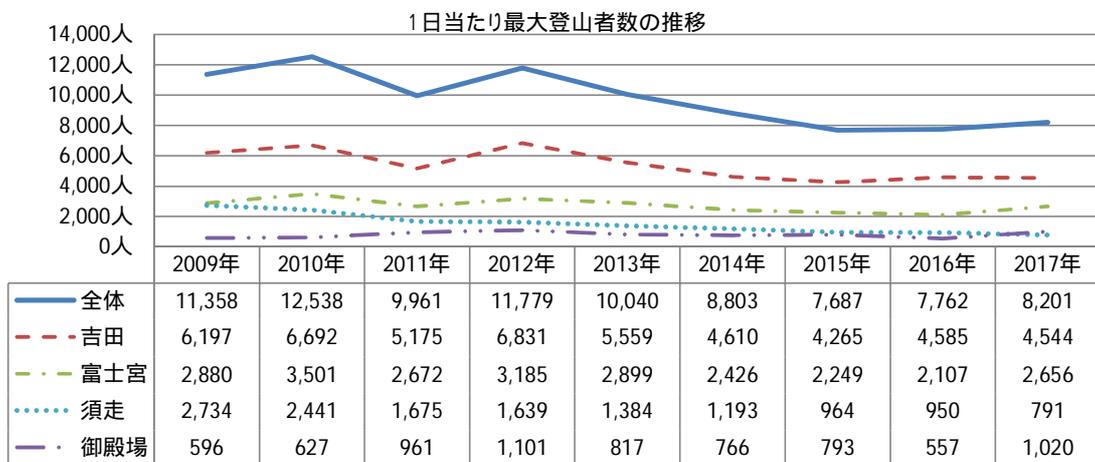
- 計画最終年（次回は2019年）に指標・水準の達成状況を評価するとともに、次期計画期間の指標・水準等を決定。
- 特に、著しい混雑が緩和された場合には、登山者数に着目し続けるのではなく、危険・不満を感じない等の登山者意識に着目した指標等を設定するなど、「登山の利用体験の質の向上」を図る。
- 富士山世界文化遺産協議会が実施状況を把握し、評価・見直しを実施。

## < 参考資料 4 > 登山者数に関する指標・水準の設定

来訪者管理戦略では、複数ある指標の1つとして、「登山道ごとの1日当たりの登山者数」を設定することとしていることから、近年の登山者数の傾向や登山道における混雑の発生状況等を多角的に分析するとともに、地元関係者や登山者の理解・協力が得られるよう検討を進め、登山者数に関する指標・水準の設定を行った。

### 1 登山者数の推移・傾向

- 2017年の全体登山者数は、ピーク時(2010年)に比べ約2割減少(320,975人 248,411人)
- 2017年の1日当たりの最大登山者数は、ピーク時(2010年)に比べ約3割減少。(12,538人 8,201人)



### 2 登山道における混雑の発生状況

- GPSロガーを用いて位置情報や速度等を把握する動態調査を実施した結果、登山道における混雑の発生は、**極めて限定的なものであることが判明した。**
- さらに調査結果を元に、登山道ごとに特定区間の登山者密度、所要時間等を推計した結果、登山者数の増加に比例して登山者密度の高まりや所要時間の増加が見られることなどを確認した。

### 3 指標の設定

- 来訪者管理戦略では、「登山道ごとの1日当たりの登山者数」を含めた複数の指標を設定することとしたが、登山の安全性や快適性が損なわれるような**著しい混雑は、恒常的に発生しているわけではない**ため、単に「1日当たり登山者数」と表記しても、限定的に発生する混雑の緩和に直結しない上、登山者数を超えた段階で入山規制が始まるものと誤解される恐れがある。
- このため、「**特定の日・時間帯・箇所における著しい混雑の緩和**」を目指すメッセージが明確に伝わるよう、次のとおり登山者数に関する指標を定める。

【指標】 夏山期間を通じて著しい混雑が発生する登山者数/日を超えた日数

#### 4 目標水準の設定

特定の日・時間帯・箇所の混雑の緩和を目指す観点から、指標に定めた「夏山期間を通じて著しい混雑が発生する1日あたりの登山者数を超過した日数」を減らすことを目標とする。

##### (1) 著しい混雑が発生する1日あたりの登山者数

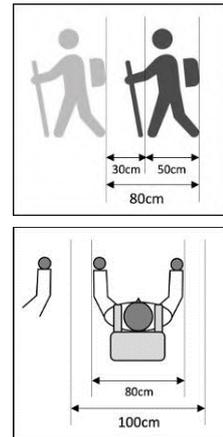
###### ア 収容力(登山者数)の概念

- ユネスコ世界遺産センター発行(2002年)の「世界遺産における来訪者管理～世界遺産管理マニュアル」では、収容力を「物理的収容力」、「社会的収容力」及び「生態的収容力」の3つの概念に分類している。
- 富士山の上方の登山道において、現状では生態的収容力で規定することは困難であるため、主に物理的収容力及び社会的収容力の観点から著しい混雑が発生する1日あたりの登山者数を導出する。

収容力の概念	富士山への適用可能性
<p><b>物理的収容力</b></p> <p>利用可能なスペースとの関係で捉えられる。「設備収容力」とも呼ばれ、宿泊客に提供可能なベッド数、駐車場が満杯となる車の数、キャンプ地におけるキャンプ客数、劇場での座席数等で規定される。</p>	<p>登山者意識調査・動態調査等の研究結果から、登山者密度は、登山者数の増加に伴って高まり、かつ混雑への許容度が低下する関係性が見られることから、社会的収容力の指標である登山者意識と組み合わせることで、収容力導出の根拠となり得る。</p> <p>一方、広大な登山道や山頂部で物理的に収容できる人数は、社会的・生態的収容力を上回る。また、施設・設備の収容・処理能力から収容できる人数は、整備状況に左右されるため、これらを富士山の収容力の根拠とすることは、妥当でない。</p>
<p><b>社会的収容力</b></p> <p>心理的、社会文化的なものであり、ある利用スペースにおいて、何人以上になるとレクリエーション体験の質や利用者の満足度が落ちるといった限界値のこと。</p>	<p>登山者意識調査・動態調査等の研究結果から、登山者数と登山道の渋滞、登山者の満足度・混雑への許容度等に相関関係が見られることから、特に登山の安全性・快適性を確保する観点から収容力導出の根拠とする。</p>
<p><b>生態的収容力</b></p> <p>生態系が持続可能な機能を維持しつつ、どの程度の人為的干渉に耐えることができるかということ。</p>	<p>五合目以上の登山道は、厳しい自然環境(風雨・融雪)による浸食が発生する箇所が見られる一方、堅牢な溶岩で形成されている箇所では登山行為による影響を受けにくく、また、標高が高くなるにつれて、動植物がほとんど見られないなど、土壌の浸食及び生物個体数等から収容力を導出することは困難である。</p>

イ 1人当たり必要面積（登山者密度）

- 現地調査等の結果から、富士登山において、前後左右の人と接触しないためには、次の距離が必要と推計。
  - ・前後の間隔 80cm( 必要な前者との空間[ 30cm ] + 荷物と人の厚み[ 50cm ])
  - ・左右の間隔 100cm( 人の幅[ 80cm ] + ストック等の振れ幅[ 左右各 10cm ])
- これより、1人当たり必要面積は最低 0.8 m<sup>2</sup>/人。
- これを密度に換算すると、1.25 人/m<sup>2</sup>となり、密度がこれ以上高まると混雑すると想定する。

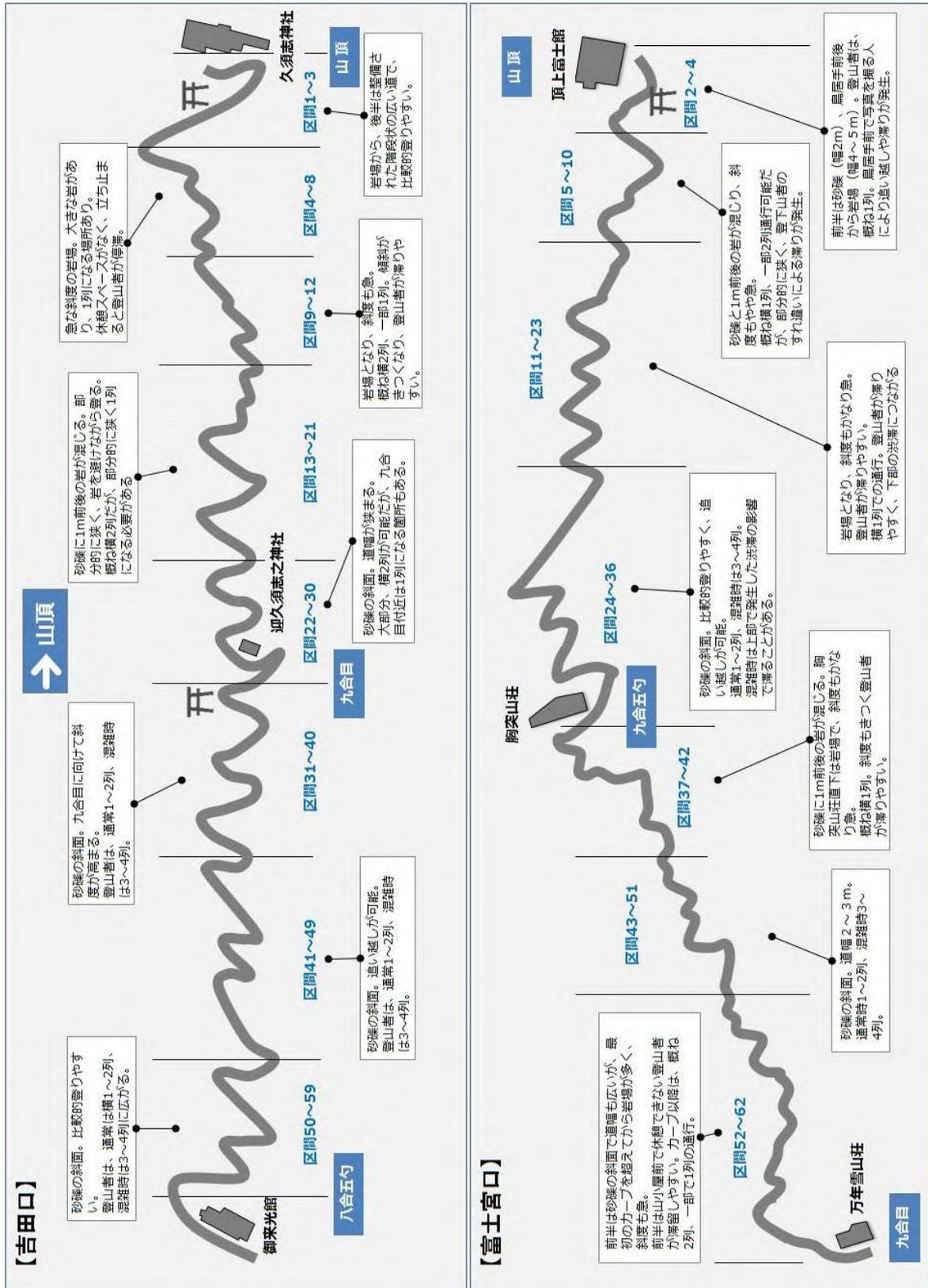


ウ 登山者数別の登山者密度等の変化

- 吉田口及び富士宮口における、御来光時間前後の頂上付近の登山者密度や登山者意識を、登山者数別に推計した。
- その際、登山者の集中状況を登山者密度（登山者の間隔）により区分した上で、それぞれ次表に示す色で視覚的に表現した。

登山者の様子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前の登山者を気にせず自分のペースで歩行が可能。</li> <li>・手を広げても周囲の登山者とぶつかることはない。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前後に登山者はいるが、連続歩行が可能。</li> <li>・手を広げるとストック等が周囲の登山者にぶつかる危険がある。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時々立ち止まる必要がある。</li> <li>・前の登山者に注意していないと、急に立ち止まった際にぶつかる危険がある。</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・止まりながら徐々に進む。</li> <li>・ストックやザックがぶつかり合う。</li> <li>・前方の登山者が転倒した場合、巻き込まれる危険性がある。</li> </ul> 
基準 (登山者の間隔)	~ 0.67 人/m <sup>2</sup> (間隔 100cm 以上)	0.67 ~ 1.00 人/m <sup>2</sup> (間隔 100-50cm)	1.00 ~ 1.25 人/m <sup>2</sup> (間隔 50-30cm)	1.25 人/m <sup>2</sup> ~ (間隔 30cm 未満)
推計に示す密度の色	白	黄	橙	赤

登山者の集中度合いと登山者密度



調査区間の特徴(吉田口:八合五勺~山頂、富士宮口:九合目~山頂)

吉田口

登山者数 (前日登山者数)		3,500人											
登山者密度		開	ID	登山道の特性	2:00	5:15	3:00	3:30	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00
		山頂直下	2		0.22	0.25	0.43	0.82	0.93	1.10	0.77	0.65	0.46
			4		0.16	0.33	0.18	0.38	0.51	0.96	0.56	0.15	0.25
			5		0.09	0.16	0.13	0.28	0.27	0.29	0.18	0.15	0.27
			6		0.21	0.29	0.18	0.22	0.28	0.27	0.21	0.14	0.14
			7	岩がある	0.67	0.68	0.93	1.04	1.02	1.47	1.24	1.11	0.48
			9		0.20	0.52	0.40	0.62	0.84	0.88	0.43	0.45	0.26
			10		0.26	0.29	0.30	0.61	0.77	0.73	0.40	0.37	0.29
			11		0.15	0.39	0.40	0.52	0.54	0.70	0.38	0.29	0.19
			13		0.33	0.43	0.48	0.77	0.99	0.68	0.36	0.29	0.16
			15		0.43	0.44	0.71	1.06	1.10	0.71	0.68	0.14	0.09
			17		0.27	0.33	0.67	0.74	1.22	0.65	0.34	0.32	0.07
			19		0.20	0.22	0.64	1.00	0.69	0.43	0.23	0.17	0.06
			21		0.25	0.19	0.53	0.61	0.47	0.39	0.22	0.08	0.03
			23		0.16	0.11	0.31	0.35	0.38	0.20	0.12	0.09	0.03
			25		0.30	0.35	0.49	0.86	0.90	0.68	0.12	0.09	0.06
			27		0.96	0.66	0.63	0.63	0.79	0.81	0.49	0.45	0.21
		九合目	30	九合目神社下	0.41	0.31	0.64	0.56	0.47	0.11	0.05	0.04	0.02
		(迎久須志	32	九合目鳥居	0.24	0.41	0.72	0.76	0.94	0.12	0.04	0.07	0.03
		神社)	34		0.18	0.46	0.76	0.71	0.65	0.06	0.06	0.05	0.09
			36		0.14	0.27	0.72	0.65	0.25	0.04	0.03	0.04	0.02
			38		0.12	0.46	0.59	0.61	0.44	0.15	0.05	0.03	0.03
			40		0.30	0.78	0.87	0.72	0.18	0.12	0.09	0.05	0.03
			42		0.09	0.40	0.29	0.20	0.20	0.08	0.02	0.02	0.02
			44		0.30	0.57	0.57	0.30	0.09	0.05	0.07	0.03	0.06
			47		0.27	0.47	0.30	0.17	0.08	0.11	0.07	0.02	0.03
			48		0.57	0.62	0.43	0.20	0.15	0.07	0.08	0.04	0.06
			50		0.49	0.47	0.35	0.16	0.10	0.04	0.07	0.02	0.06
			52		0.65	0.58	0.39	0.15	0.07	0.04	0.04	0.03	0.06
			56		0.56	0.29	0.18	0.09	0.05	0.03	0.03	0.04	0.03
			58		0.76	0.57	0.36	0.23	0.09	0.06	0.04	0.06	0.15
		八合五勺	59	御来光橋前	1.12	0.95	0.77	0.29	0.58	0.64	0.43	0.45	0.12
		(御来光館)											
御来光館～山頂直下の所要時間		日中出発	58分										
		午前2時出発	97分										
登山者意識	混雑許容度(登山道)	登山道の人の多さが許容できない	9.4%										
		登山道の人の多さがあまり許容できない	24.8%										
	混雑許容度(山頂)	山頂の人の多さが許容できない	9.6%										
		山頂の人の多さがあまり許容できない	22.0%										
	危険の認識	無理な追い越しによる危険があった	22.4%										
登山者の様子													
		2016/8/15 4:32 山頂直下 前日登山者数 3,659人											
備考		<ul style="list-style-type: none"> <li>御来光直前に、登山道の上に大きな岩がある区間7で密度赤が発生するが、30分以上継続することはない。</li> </ul>											

4,000 人											4,500 人										
ID	登山道の特性	2:00	2:30	3:00	3:30	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00	ID	登山道の特性	2:00	2:30	3:00	3:30	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00
2		0.28	0.27	0.52	0.97	1.11	1.39	0.95	0.80	0.57	2		0.33	0.30	0.60	1.11	1.30	1.68	1.14	0.95	0.68
4		0.20	0.39	0.15	0.41	0.54	1.21	0.64	0.14	0.26	4		0.24	0.45	0.12	0.45	0.58	1.45	0.72	0.14	0.28
5		0.11	0.18	0.13	0.28	0.30	0.33	0.17	0.16	0.34	5		0.13	0.20	0.13	0.29	0.32	0.37	0.17	0.17	0.42
6		0.26	0.34	0.21	0.23	0.30	0.31	0.23	0.16	0.17	6		0.30	0.39	0.25	0.24	0.33	0.36	0.24	0.17	0.19
7	岩がある	0.74	0.71	1.03	1.14	1.05	1.69	1.30	1.27	0.60	7	岩がある	0.81	0.73	1.13	1.25	1.08	1.91	1.37	1.42	0.73
9		0.23	0.60	0.42	0.62	0.87	1.04	0.46	0.54	0.28	9		0.25	0.69	0.44	0.63	0.91	1.21	0.49	0.62	0.31
10		0.31	0.32	0.35	0.61	0.85	0.88	0.42	0.42	0.36	10		0.37	0.35	0.40	0.62	0.92	1.02	0.43	0.47	0.43
11		0.18	0.45	0.46	0.50	0.60	0.85	0.42	0.35	0.21	11		0.21	0.50	0.52	0.48	0.66	1.01	0.46	0.41	0.23
13		0.40	0.49	0.51	0.72	1.19	0.78	0.40	0.34	0.17	13		0.47	0.54	0.54	0.67	1.39	0.87	0.44	0.40	0.18
15		0.53	0.47	0.75	1.10	1.26	0.86	0.81	0.16	0.10	15		0.64	0.51	0.78	1.13	1.42	1.01	0.94	0.18	0.12
17		0.35	0.38	0.82	0.81	1.48	0.79	0.41	0.43	0.07	17		0.43	0.43	0.96	0.89	1.73	0.93	0.48	0.54	0.08
19		0.25	0.24	0.70	1.12	0.83	0.49	0.28	0.20	0.06	19		0.31	0.26	0.75	1.25	0.97	0.55	0.33	0.22	0.07
21		0.29	0.20	0.65	0.71	0.55	0.44	0.25	0.08	0.03	21		0.33	0.22	0.76	0.80	0.63	0.49	0.28	0.08	0.04
23		0.21	0.11	0.35	0.37	0.49	0.23	0.16	0.11	0.03	23		0.26	0.12	0.39	0.39	0.60	0.27	0.19	0.12	0.04
25		0.36	0.35	0.51	1.02	0.99	0.78	0.13	0.09	0.06	25		0.43	0.38	0.52	1.18	1.18	0.88	0.13	0.10	0.06
27		1.12	0.72	0.67	0.73	0.96	1.02	0.84	0.52	0.27	27		1.28	0.77	0.72	0.84	1.14	1.24	0.79	0.58	0.33
30	九合目神社下	0.51	0.38	0.71	0.61	0.55	0.14	0.05	0.04	0.03	30	九合目神社下	0.61	0.44	0.78	0.66	0.63	0.16	0.05	0.04	0.03
32	九合目鳥居	0.31	0.48	0.82	0.95	1.18	0.12	0.04	0.07	0.04	32	九合目鳥居	0.37	0.54	0.92	1.15	1.32	0.13	0.05	0.08	0.04
34		0.23	0.55	0.91	0.82	0.78	0.08	0.07	0.05	0.10	34		0.28	0.64	1.07	0.92	0.91	0.09	0.09	0.05	0.11
36		0.17	0.31	0.88	0.83	0.28	0.04	0.04	0.05	0.01	36		0.20	0.34	1.04	1.02	0.32	0.05	0.04	0.06	0.01
38		0.13	0.55	0.72	0.77	0.52	0.18	0.06	0.03	0.03	38		0.13	0.64	0.84	0.92	0.60	0.20	0.07	0.03	0.04
40		0.32	0.94	1.09	0.88	0.20	0.14	0.10	0.06	0.03	40		0.34	1.10	1.30	1.05	0.22	0.15	0.12	0.07	0.04
42		0.10	0.48	0.35	0.24	0.23	0.11	0.02	0.02	0.02	42		0.12	0.57	0.42	0.27	0.26	0.13	0.02	0.01	0.02
44		0.30	0.68	0.67	0.35	0.09	0.06	0.08	0.03	0.07	44		0.29	0.78	0.77	0.41	0.09	0.06	0.09	0.03	0.09
47		0.30	0.56	0.34	0.20	0.09	0.13	0.07	0.02	0.04	47		0.34	0.66	0.39	0.23	0.11	0.16	0.07	0.03	0.04
48		0.73	0.74	0.50	0.21	0.18	0.07	0.09	0.05	0.07	48		0.88	0.85	0.56	0.23	0.20	0.07	0.09	0.05	0.08
50		0.57	0.52	0.38	0.18	0.13	0.04	0.07	0.03	0.07	50		0.65	0.57	0.41	0.21	0.16	0.04	0.07	0.03	0.08
52		0.82	0.69	0.45	0.17	0.07	0.04	0.04	0.04	0.08	52		0.99	0.81	0.50	0.20	0.07	0.04	0.05	0.05	0.09
56		0.66	0.32	0.20	0.10	0.05	0.03	0.03	0.04	0.03	56		0.76	0.34	0.21	0.10	0.06	0.03	0.03	0.05	0.03
58		0.86	0.67	0.41	0.25	0.09	0.07	0.04	0.07	0.20	58		0.96	0.78	0.46	0.27	0.09	0.07	0.04	0.08	0.26
59	御来光駅前	1.23	0.93	0.81	0.27	0.65	0.71	0.48	0.53	0.13	59	御来光駅前	1.35	0.92	0.86	0.25	0.73	0.78	0.53	0.60	0.15

日中出発	60 分	日中出発	61 分
午前 2 時出発	105 分	午前 2 時出発	112 分
登山道の人の多さが許容できない	11.1%	登山道の人の多さが許容できない	12.8%
登山道の人の多さがあまり許容できない	28.5%	登山道の人の多さがあまり許容できない	32.2%
山頂の人の多さが許容できない	11.2%	山頂の人の多さが許容できない	12.7%
山頂の人の多さがあまり許容できない	25.2%	山頂の人の多さがあまり許容できない	28.4%
無理な追い越しによる危険があった	24.5%	無理な追い越しによる危険があった	26.5%

 <p>2017/8/6 5:21 九合目付近 前日登山者数 4,066 人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>登山道に大きな岩がある区間 7 で密度赤の状況が 1 時間以上継続する。</li> <li>岩場が始まる区間 17～15 では連続して密度赤の発生が見られる。</li> <li>九合目より下に密度黄の区間が広がる。</li> </ul>	 <p>2017/8/13 3:22 九合目付近 前日登山者数 4,544 人</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>密度赤の状況が同時に複数個所で発生し、1 時間以上継続する箇所や同時に 2 区間に亘って連続する箇所が散見される。</li> <li>九合目以下でも密度赤が発生し、4000 人時と比較して密度橙の区間が増える。</li> </ul>
---	---

富士宮口

登山者数 (前日登山者数)		1,500 人																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
登山者密度		<table border="1"> <thead> <tr> <th>ID</th> <th>標高</th> <th>2:00</th> <th>2:30</th> <th>3:00</th> <th>3:30</th> <th>4:00</th> <th>4:30</th> <th>5:00</th> <th>5:30</th> <th>6:00</th> <th>6:30</th> <th>7:00</th> <th>7:30</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>2</td><td>標高</td><td>0.06</td><td>0.17</td><td>0.38</td><td>0.53</td><td>0.53</td><td>0.51</td><td>0.41</td><td>0.28</td><td>0.88</td><td>0.94</td><td>0.56</td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td>0.02</td><td>0.12</td><td>0.12</td><td>0.22</td><td>0.22</td><td>0.22</td><td>0.38</td><td>0.30</td><td>0.30</td><td>0.35</td><td>0.30</td><td>0.19</td></tr> <tr><td>5</td><td></td><td>0.02</td><td>0.28</td><td>0.19</td><td>0.41</td><td>0.50</td><td>0.41</td><td>0.61</td><td>0.49</td><td>0.58</td><td>0.37</td><td>0.35</td><td>0.25</td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td>0.05</td><td>0.16</td><td>0.28</td><td>0.49</td><td>0.58</td><td>0.41</td><td>0.49</td><td>0.44</td><td>0.44</td><td>0.33</td><td>0.34</td><td>0.17</td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td>0.05</td><td>0.15</td><td>0.28</td><td>0.38</td><td>0.38</td><td>0.31</td><td>0.37</td><td>0.27</td><td>0.31</td><td>0.24</td><td>0.23</td><td>0.15</td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td>0.01</td><td>0.06</td><td>0.08</td><td>0.13</td><td>0.15</td><td>0.10</td><td>0.11</td><td>0.08</td><td>0.12</td><td>0.07</td><td>0.06</td><td>0.06</td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td>0.03</td><td>0.16</td><td>0.18</td><td>0.44</td><td>0.33</td><td>0.24</td><td>0.25</td><td>0.26</td><td>0.27</td><td>0.22</td><td>0.15</td><td>0.14</td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td>0.12</td><td>0.30</td><td>0.42</td><td>0.56</td><td>0.59</td><td>0.43</td><td>0.28</td><td>0.38</td><td>0.32</td><td>0.41</td><td>0.27</td><td>0.20</td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td>0.04</td><td>0.11</td><td>0.21</td><td>0.36</td><td>0.37</td><td>0.23</td><td>0.18</td><td>0.19</td><td>0.21</td><td>0.21</td><td>0.13</td><td>0.18</td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td>0.11</td><td>0.25</td><td>0.37</td><td>0.59</td><td>0.56</td><td>0.33</td><td>0.28</td><td>0.48</td><td>0.29</td><td>0.45</td><td>0.29</td><td>0.24</td></tr> <tr><td>17</td><td></td><td>0.16</td><td>0.26</td><td>0.59</td><td>0.94</td><td>0.81</td><td>0.47</td><td>0.41</td><td>0.42</td><td>0.28</td><td>0.38</td><td>0.24</td><td>0.28</td></tr> <tr><td>20</td><td></td><td>0.23</td><td>0.11</td><td>0.45</td><td>0.57</td><td>0.60</td><td>0.27</td><td>0.22</td><td>0.41</td><td>0.31</td><td>0.27</td><td>0.10</td><td>0.18</td></tr> <tr><td>22</td><td></td><td>0.16</td><td>0.16</td><td>0.45</td><td>0.52</td><td>0.49</td><td>0.27</td><td>0.21</td><td>0.22</td><td>0.25</td><td>0.28</td><td>0.15</td><td>0.24</td></tr> <tr><td>24</td><td></td><td>0.05</td><td>0.09</td><td>0.14</td><td>0.19</td><td>0.14</td><td>0.06</td><td>0.05</td><td>0.04</td><td>0.07</td><td>0.03</td><td>0.04</td><td>0.04</td></tr> <tr><td>25</td><td></td><td>0.03</td><td>0.14</td><td>0.46</td><td>0.47</td><td>0.35</td><td>0.18</td><td>0.13</td><td>0.10</td><td>0.11</td><td>0.11</td><td>0.07</td><td>0.05</td></tr> <tr><td>28</td><td></td><td>0.13</td><td>0.13</td><td>0.39</td><td>0.39</td><td>0.25</td><td>0.18</td><td>0.14</td><td>0.22</td><td>0.22</td><td>0.18</td><td>0.14</td><td>0.14</td></tr> <tr><td>29</td><td></td><td>0.17</td><td>0.23</td><td>0.41</td><td>0.39</td><td>0.36</td><td>0.14</td><td>0.23</td><td>0.14</td><td>0.15</td><td>0.21</td><td>0.15</td><td>0.19</td></tr> <tr><td>32</td><td></td><td>0.04</td><td>0.14</td><td>0.24</td><td>0.34</td><td>0.25</td><td>0.21</td><td>0.10</td><td>0.08</td><td>0.09</td><td>0.07</td><td>0.06</td><td>0.05</td></tr> <tr><td>34</td><td></td><td>0.14</td><td>0.31</td><td>0.68</td><td>0.39</td><td>0.21</td><td>0.08</td><td>0.15</td><td>0.10</td><td>0.12</td><td>0.23</td><td>0.13</td><td>0.05</td></tr> <tr><td>37</td><td>胸突山荘前</td><td>0.48</td><td>0.58</td><td>0.66</td><td>0.77</td><td>0.54</td><td>0.53</td><td>0.19</td><td>0.40</td><td>0.56</td><td>0.73</td><td>0.65</td><td>0.44</td></tr> <tr><td>39</td><td></td><td>0.57</td><td>0.84</td><td>0.94</td><td>0.94</td><td>0.47</td><td>0.15</td><td>0.19</td><td>0.29</td><td>0.33</td><td>0.43</td><td>0.51</td><td>0.32</td></tr> <tr><td>40</td><td></td><td>0.11</td><td>0.31</td><td>0.34</td><td>0.28</td><td>0.14</td><td>0.05</td><td>0.04</td><td>0.07</td><td>0.09</td><td>0.08</td><td>0.10</td><td>0.06</td></tr> <tr><td>42</td><td></td><td>0.17</td><td>0.35</td><td>0.46</td><td>0.36</td><td>0.20</td><td>0.06</td><td>0.07</td><td>0.11</td><td>0.11</td><td>0.11</td><td>0.18</td><td>0.07</td></tr> <tr><td>43</td><td></td><td>0.29</td><td>0.68</td><td>0.85</td><td>0.65</td><td>0.29</td><td>0.06</td><td>0.10</td><td>0.18</td><td>0.24</td><td>0.27</td><td>0.38</td><td>0.18</td></tr> <tr><td>44</td><td></td><td>0.30</td><td>0.65</td><td>1.24</td><td>0.95</td><td>0.42</td><td>0.08</td><td>0.13</td><td>0.31</td><td>0.28</td><td>0.24</td><td>0.60</td><td>0.28</td></tr> <tr><td>46</td><td></td><td>0.45</td><td>0.82</td><td>0.88</td><td>0.78</td><td>0.41</td><td>0.07</td><td>0.15</td><td>0.27</td><td>0.28</td><td>0.36</td><td>0.53</td><td>0.26</td></tr> <tr><td>48</td><td></td><td>0.30</td><td>0.56</td><td>0.53</td><td>0.36</td><td>0.11</td><td>0.04</td><td>0.08</td><td>0.17</td><td>0.15</td><td>0.19</td><td>0.19</td><td>0.18</td></tr> <tr><td>49</td><td></td><td>0.17</td><td>0.37</td><td>0.29</td><td>0.32</td><td>0.08</td><td>0.08</td><td>0.05</td><td>0.17</td><td>0.11</td><td>0.15</td><td>0.20</td><td>0.12</td></tr> <tr><td>51</td><td></td><td>0.15</td><td>0.57</td><td>0.31</td><td>0.17</td><td>0.09</td><td>0.01</td><td>0.02</td><td>0.16</td><td>0.12</td><td>0.15</td><td>0.15</td><td>0.13</td></tr> <tr><td>52</td><td></td><td>0.30</td><td>0.47</td><td>0.46</td><td>0.24</td><td>0.08</td><td>0.05</td><td>0.10</td><td>0.11</td><td>0.17</td><td>0.17</td><td>0.28</td><td>0.19</td></tr> <tr><td>53</td><td></td><td>0.27</td><td>0.42</td><td>0.29</td><td>0.18</td><td>0.11</td><td>0.03</td><td>0.07</td><td>0.15</td><td>0.25</td><td>0.20</td><td>0.24</td><td>0.17</td></tr> <tr><td>54</td><td></td><td>0.37</td><td>0.49</td><td>0.52</td><td>0.34</td><td>0.11</td><td>0.09</td><td>0.11</td><td>0.17</td><td>0.30</td><td>0.32</td><td>0.40</td><td>0.31</td></tr> <tr><td>55</td><td></td><td>0.33</td><td>0.44</td><td>0.30</td><td>0.18</td><td>0.08</td><td>0.06</td><td>0.05</td><td>0.08</td><td>0.18</td><td>0.20</td><td>0.23</td><td>0.26</td></tr> <tr><td>56</td><td></td><td>0.31</td><td>0.40</td><td>0.35</td><td>0.16</td><td>0.06</td><td>0.03</td><td>0.07</td><td>0.10</td><td>0.18</td><td>0.18</td><td>0.23</td><td>0.23</td></tr> <tr><td>57</td><td></td><td>0.17</td><td>0.24</td><td>0.23</td><td>0.16</td><td>0.05</td><td>0.03</td><td>0.04</td><td>0.05</td><td>0.15</td><td>0.13</td><td>0.14</td><td>0.13</td></tr> <tr><td>58</td><td></td><td>0.30</td><td>0.39</td><td>0.31</td><td>0.13</td><td>0.05</td><td>0.05</td><td>0.03</td><td>0.07</td><td>0.14</td><td>0.12</td><td>0.15</td><td>0.14</td></tr> <tr><td>59</td><td></td><td>0.29</td><td>0.33</td><td>0.25</td><td>0.11</td><td>0.03</td><td>0.03</td><td>0.03</td><td>0.06</td><td>0.12</td><td>0.13</td><td>0.14</td><td>0.15</td></tr> <tr><td>61</td><td></td><td>0.75</td><td>0.72</td><td>0.53</td><td>0.10</td><td>0.05</td><td>0.06</td><td>0.03</td><td>0.05</td><td>0.17</td><td>0.22</td><td>0.18</td><td>0.26</td></tr> <tr><td>62</td><td>万年雪山荘前</td><td>0.75</td><td>0.68</td><td>0.28</td><td>0.09</td><td>0.04</td><td>0.06</td><td>0.05</td><td>0.12</td><td>0.30</td><td>0.21</td><td>0.49</td><td>0.38</td></tr> </tbody> </table>		ID	標高	2:00	2:30	3:00	3:30	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	7:30	2	標高	0.06	0.17	0.38	0.53	0.53	0.51	0.41	0.28	0.88	0.94	0.56		3		0.02	0.12	0.12	0.22	0.22	0.22	0.38	0.30	0.30	0.35	0.30	0.19	5		0.02	0.28	0.19	0.41	0.50	0.41	0.61	0.49	0.58	0.37	0.35	0.25	6		0.05	0.16	0.28	0.49	0.58	0.41	0.49	0.44	0.44	0.33	0.34	0.17	8		0.05	0.15	0.28	0.38	0.38	0.31	0.37	0.27	0.31	0.24	0.23	0.15	9		0.01	0.06	0.08	0.13	0.15	0.10	0.11	0.08	0.12	0.07	0.06	0.06	10		0.03	0.16	0.18	0.44	0.33	0.24	0.25	0.26	0.27	0.22	0.15	0.14	12		0.12	0.30	0.42	0.56	0.59	0.43	0.28	0.38	0.32	0.41	0.27	0.20	13		0.04	0.11	0.21	0.36	0.37	0.23	0.18	0.19	0.21	0.21	0.13	0.18	15		0.11	0.25	0.37	0.59	0.56	0.33	0.28	0.48	0.29	0.45	0.29	0.24	17		0.16	0.26	0.59	0.94	0.81	0.47	0.41	0.42	0.28	0.38	0.24	0.28	20		0.23	0.11	0.45	0.57	0.60	0.27	0.22	0.41	0.31	0.27	0.10	0.18	22		0.16	0.16	0.45	0.52	0.49	0.27	0.21	0.22	0.25	0.28	0.15	0.24	24		0.05	0.09	0.14	0.19	0.14	0.06	0.05	0.04	0.07	0.03	0.04	0.04	25		0.03	0.14	0.46	0.47	0.35	0.18	0.13	0.10	0.11	0.11	0.07	0.05	28		0.13	0.13	0.39	0.39	0.25	0.18	0.14	0.22	0.22	0.18	0.14	0.14	29		0.17	0.23	0.41	0.39	0.36	0.14	0.23	0.14	0.15	0.21	0.15	0.19	32		0.04	0.14	0.24	0.34	0.25	0.21	0.10	0.08	0.09	0.07	0.06	0.05	34		0.14	0.31	0.68	0.39	0.21	0.08	0.15	0.10	0.12	0.23	0.13	0.05	37	胸突山荘前	0.48	0.58	0.66	0.77	0.54	0.53	0.19	0.40	0.56	0.73	0.65	0.44	39		0.57	0.84	0.94	0.94	0.47	0.15	0.19	0.29	0.33	0.43	0.51	0.32	40		0.11	0.31	0.34	0.28	0.14	0.05	0.04	0.07	0.09	0.08	0.10	0.06	42		0.17	0.35	0.46	0.36	0.20	0.06	0.07	0.11	0.11	0.11	0.18	0.07	43		0.29	0.68	0.85	0.65	0.29	0.06	0.10	0.18	0.24	0.27	0.38	0.18	44		0.30	0.65	1.24	0.95	0.42	0.08	0.13	0.31	0.28	0.24	0.60	0.28	46		0.45	0.82	0.88	0.78	0.41	0.07	0.15	0.27	0.28	0.36	0.53	0.26	48		0.30	0.56	0.53	0.36	0.11	0.04	0.08	0.17	0.15	0.19	0.19	0.18	49		0.17	0.37	0.29	0.32	0.08	0.08	0.05	0.17	0.11	0.15	0.20	0.12	51		0.15	0.57	0.31	0.17	0.09	0.01	0.02	0.16	0.12	0.15	0.15	0.13	52		0.30	0.47	0.46	0.24	0.08	0.05	0.10	0.11	0.17	0.17	0.28	0.19	53		0.27	0.42	0.29	0.18	0.11	0.03	0.07	0.15	0.25	0.20	0.24	0.17	54		0.37	0.49	0.52	0.34	0.11	0.09	0.11	0.17	0.30	0.32	0.40	0.31	55		0.33	0.44	0.30	0.18	0.08	0.06	0.05	0.08	0.18	0.20	0.23	0.26	56		0.31	0.40	0.35	0.16	0.06	0.03	0.07	0.10	0.18	0.18	0.23	0.23	57		0.17	0.24	0.23	0.16	0.05	0.03	0.04	0.05	0.15	0.13	0.14	0.13	58		0.30	0.39	0.31	0.13	0.05	0.05	0.03	0.07	0.14	0.12	0.15	0.14	59		0.29	0.33	0.25	0.11	0.03	0.03	0.03	0.06	0.12	0.13	0.14	0.15	61		0.75	0.72	0.53	0.10	0.05	0.06	0.03	0.05	0.17	0.22	0.18	0.26	62	万年雪山荘前	0.75	0.68	0.28	0.09	0.04	0.06	0.05	0.12	0.30	0.21	0.49	0.38
ID	標高	2:00	2:30	3:00	3:30	4:00	4:30	5:00	5:30	6:00	6:30	7:00	7:30																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
2	標高	0.06	0.17	0.38	0.53	0.53	0.51	0.41	0.28	0.88	0.94	0.56																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																							
3		0.02	0.12	0.12	0.22	0.22	0.22	0.38	0.30	0.30	0.35	0.30	0.19																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
5		0.02	0.28	0.19	0.41	0.50	0.41	0.61	0.49	0.58	0.37	0.35	0.25																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
6		0.05	0.16	0.28	0.49	0.58	0.41	0.49	0.44	0.44	0.33	0.34	0.17																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
8		0.05	0.15	0.28	0.38	0.38	0.31	0.37	0.27	0.31	0.24	0.23	0.15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
9		0.01	0.06	0.08	0.13	0.15	0.10	0.11	0.08	0.12	0.07	0.06	0.06																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
10		0.03	0.16	0.18	0.44	0.33	0.24	0.25	0.26	0.27	0.22	0.15	0.14																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
12		0.12	0.30	0.42	0.56	0.59	0.43	0.28	0.38	0.32	0.41	0.27	0.20																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
13		0.04	0.11	0.21	0.36	0.37	0.23	0.18	0.19	0.21	0.21	0.13	0.18																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
15		0.11	0.25	0.37	0.59	0.56	0.33	0.28	0.48	0.29	0.45	0.29	0.24																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
17		0.16	0.26	0.59	0.94	0.81	0.47	0.41	0.42	0.28	0.38	0.24	0.28																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
20		0.23	0.11	0.45	0.57	0.60	0.27	0.22	0.41	0.31	0.27	0.10	0.18																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
22		0.16	0.16	0.45	0.52	0.49	0.27	0.21	0.22	0.25	0.28	0.15	0.24																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
24		0.05	0.09	0.14	0.19	0.14	0.06	0.05	0.04	0.07	0.03	0.04	0.04																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
25		0.03	0.14	0.46	0.47	0.35	0.18	0.13	0.10	0.11	0.11	0.07	0.05																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
28		0.13	0.13	0.39	0.39	0.25	0.18	0.14	0.22	0.22	0.18	0.14	0.14																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
29		0.17	0.23	0.41	0.39	0.36	0.14	0.23	0.14	0.15	0.21	0.15	0.19																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
32		0.04	0.14	0.24	0.34	0.25	0.21	0.10	0.08	0.09	0.07	0.06	0.05																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
34		0.14	0.31	0.68	0.39	0.21	0.08	0.15	0.10	0.12	0.23	0.13	0.05																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
37	胸突山荘前	0.48	0.58	0.66	0.77	0.54	0.53	0.19	0.40	0.56	0.73	0.65	0.44																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
39		0.57	0.84	0.94	0.94	0.47	0.15	0.19	0.29	0.33	0.43	0.51	0.32																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
40		0.11	0.31	0.34	0.28	0.14	0.05	0.04	0.07	0.09	0.08	0.10	0.06																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
42		0.17	0.35	0.46	0.36	0.20	0.06	0.07	0.11	0.11	0.11	0.18	0.07																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
43		0.29	0.68	0.85	0.65	0.29	0.06	0.10	0.18	0.24	0.27	0.38	0.18																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
44		0.30	0.65	1.24	0.95	0.42	0.08	0.13	0.31	0.28	0.24	0.60	0.28																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
46		0.45	0.82	0.88	0.78	0.41	0.07	0.15	0.27	0.28	0.36	0.53	0.26																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
48		0.30	0.56	0.53	0.36	0.11	0.04	0.08	0.17	0.15	0.19	0.19	0.18																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
49		0.17	0.37	0.29	0.32	0.08	0.08	0.05	0.17	0.11	0.15	0.20	0.12																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
51		0.15	0.57	0.31	0.17	0.09	0.01	0.02	0.16	0.12	0.15	0.15	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
52		0.30	0.47	0.46	0.24	0.08	0.05	0.10	0.11	0.17	0.17	0.28	0.19																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
53		0.27	0.42	0.29	0.18	0.11	0.03	0.07	0.15	0.25	0.20	0.24	0.17																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
54		0.37	0.49	0.52	0.34	0.11	0.09	0.11	0.17	0.30	0.32	0.40	0.31																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
55		0.33	0.44	0.30	0.18	0.08	0.06	0.05	0.08	0.18	0.20	0.23	0.26																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
56		0.31	0.40	0.35	0.16	0.06	0.03	0.07	0.10	0.18	0.18	0.23	0.23																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
57		0.17	0.24	0.23	0.16	0.05	0.03	0.04	0.05	0.15	0.13	0.14	0.13																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
58		0.30	0.39	0.31	0.13	0.05	0.05	0.03	0.07	0.14	0.12	0.15	0.14																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
59		0.29	0.33	0.25	0.11	0.03	0.03	0.03	0.06	0.12	0.13	0.14	0.15																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
61		0.75	0.72	0.53	0.10	0.05	0.06	0.03	0.05	0.17	0.22	0.18	0.26																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
62	万年雪山荘前	0.75	0.68	0.28	0.09	0.04	0.06	0.05	0.12	0.30	0.21	0.49	0.38																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						
万年雪山荘～山頂直下の所要時間		日中出発	33分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		午前2時出発	52分																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
登山者意識	混雑許容度 (登山道)	登山道の人の多さが許容できない	4.4%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		登山道の人の多さがあまり許容できない	13.0%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	混雑許容度 (山頂)	山頂の人の多さが許容できない	4.6%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
		山頂の人の多さがあまり許容できない	10.9%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
	危険の認識	無理な追い越しによる危険があった	17.3%																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
登山者の様子		 <p>2015/8/12 4:47 山頂直下 前日登山者数 1,494 人</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	
備考		<p>・御来光後に山頂直下で密度赤の状況が1時間程度発生するが、他の区間で密度赤が発生することはない。</p>																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																	



## エ 富士山における「著しい混雑」の定義及び発生の目安

### 「著しい混雑」の定義

- 現地調査の結果及び前項の推計結果から、富士山における「著しい混雑」を次のとおり定義する。

山頂から九合目までの区間において、登山者密度が 1.25 人/m<sup>2</sup>以上になる状態が同時に複数箇所発生し、かつ、一つの区間で 1 時間以上継続する又は 2 区間以上連続して発生する状況。

### 「著しい混雑」の発生日目安

- 「著しい混雑が発生する登山者数/日」については、物理的収容力及び社会的収容力（登山者密度の登山者意識の関係等）に係る調査結果及び「著しい混雑」の定義を踏まえ、関係者間の合意を経て、
  - 『吉田口 : 4,000 人/日』
  - 『富士宮口 : 2,000 人/日』
 と設定する。
- 御殿場口及び須走口（吉田口と合流する本八合目より下）は、現状では目立った混雑が発生しないため、指標・水準は設定しない。

## （ 2 ） 2019 年の目標水準

- 2019 年の目標値は、前項で設定した登山者数を超えた日数を減らしていく観点から現状（2015～2017 年の超過日数の平均値）を踏まえ、
  - 『吉田口 : 3 日以下』
  - 『富士宮口 : 2 日以下』
 と設定する。

富士山の上方の登山道の収容力に係る調査・研究結果及びそれらに基づく来訪者管理計画の詳細については、下記 URL 参照のこと

<http://www.fujisan-3776.jp/preservation/visitor-management/management-plan/index.html>

## 上方の登山道等の総合的な保全手法

### 1 要旨

- 山梨県・静岡県は、来訪者の登山行為による登山道への影響を抑制するため、「望ましい富士登山の在り方」の実現を目指し設定した指標に基づく来訪者管理を実施している。
  - ・シャトルバスの最終発車時間の見直し、マイカー規制の継続
  - ・混雑予想カレンダーの作成など登山者数の平準化に向けた情報提供の強化 等

【参考資料3 (P23)[再掲]】
- 山梨県・静岡県は、信仰行為としての登拝に起源を持つ、登山道及び山小屋、さらにそれらの維持・運営に不可欠なトラクター道について、周囲の自然環境や景観に配慮した材料・工法による維持補修を実施するとともに、施設外観・看板等の修景を行うなど、景観との調和に向けた取組を進めている。
  - ・定期的な登山道パトロールの実施、周辺環境に適した人工構造物への修景
  - ・山小屋整備ガイドラインの策定(2016年3月) 等

【参考資料5 (P39), 参考資料6 (P42)】

### 2 戦略に記載した取組の方向性

#### (1) 来訪者管理戦略の確実な実施

来訪者による登山道への影響の抑制を図るため、登拝の本質を継承した「望ましい富士登山の在り方」の推進を目指して、来訪者管理戦略に定めた対策を確実に実施する。

#### (2) 展望景観等に配慮した材料・工法の選択

登山道の維持補修には、常に自然環境、神聖な雰囲気、登山道からの良好な展望に配慮した適当な材料・工法を採用する。

### 3 実施状況

#### (1) 来訪者管理戦略の確実な実施

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
来訪者数の平準化のための対策等を講じることにより、来訪者による登山道への影響の抑制を図る。	山梨県・静岡県は、シャトルバスの最終発車時間を見直すなど、登山者数の平準化に向けた取組を進めるとともに、「望ましい富士登山の在り方」を実現するために指標等の設定を行う。

## (2) 展望景観等に配慮した材料・工法の選択

### ア 登山道

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
登山道の浸食箇所及び登山行為による影響等を把握し、維持補修業務に適切な材料・工法を反映させるなどの維持管理の充実を図る。	山梨県・静岡県は、開山期間中、定期的に登山道パトロールを実施し、不具合を確認した場合には維持補修を行うなど、適切な維持管理を行っている。
落石防護壁等の人工構造物の設置・改修に当たっては、展望景観へ与える影響を緩和するための材料・工法を定める。	山梨県は、現地での実証実験や多様な分野の専門家の意見を踏まえ、それぞれの周辺環境に適した人工構造物の修景手法を採用する。

### イ 山小屋

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
山小屋の施設外観・看板類等の現状を把握するとともに、改善を行う。	<p>環境省、山梨県・静岡県及び関係事業者等は、富士箱根伊豆国立公園(富士山地域)の管理計画及び富士山における標識類総合ガイドライン等を適切に運用し、外観等の維持・改善に努めている。</p> <p>山梨県は、富士山の自然・景観を尊重した山小屋施設の修景を図るため、2016年3月に「吉田口山小屋の整備ガイドライン」を作成し、中長期的に山小屋の修景や信仰に関わる要素の保存・伝達に取り組んでいる。</p>

### ウ トラクター道

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
トラクター道等の現況を把握し、展望景観への影響の程度を分析する。	山梨県・静岡県は、関係者間でトラクター道の現況や展望景観への影響の把握に努めている。
貨物用車両の効果的な運行方法及び低騒音・低排出ガス車両の導入等の対策に取り組むための協議・検討を継続する。	山梨県・静岡県は、貨物用車両の運行方法や環境への影響について、関係者間で協議・検討を継続して実施している。

## < 参考資料5 > 人工構造物の修景対策

### 概要

- ・山梨県は、登山者等の安全対策及び登山道の保全のために整備している、落石防護壁などの人工構造物について、周囲の環境に適合した修景を行うため、専門家や登山者の意見を踏まえ、対策工法の抽出・検討を行った。

### 取組内容

#### 1 試験施工の概要

<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山者等の安全対策及び登山道の保全のため、登山道周辺に整備されている人工構造物(導流堤・鋼製自在枠)について、眺望や自然景観に配慮した修景を行うため、富士山に適した対策工法の抽出・検討を行った。</li> <li>・対策工法の選定にあたっては、2015年度に富士山登山者(日本人及び訪日外国人)へのアンケート調査を実施した。</li> <li>・対策工法を確立するため、各種の対策工法の試験施工を実施した。なお、修景対策の手法・効果検証にあたっては、有識者(山梨県景観アドバイザー)からアドバイスを得た。</li> </ul>
---

#### 【試験施工の実施状況】

工種		概要	施工実施年度			
			2014	2015	2016	2017
緑化工	挿し木工 (直挿し)	・現地採取材(ミヤマヤナギ・フジタドリ等)の挿し木・播種による壁面緑化				モニタリング・評価
	挿し木工・播種工 (保水材・基盤材使用)	・初期乾燥を防止する補助基盤材等を併用				
	挿し木工・播種工 (保水材・基盤材・緑化材使用)	・一定期間養生し、発根させた緑化材を使用				
吹付工		・テクスチャ・質感などを現地の景観に調和させる骨材を混入した塗料吹付による塗装工				
化粧パネル工		・火山岩を化粧材に用いたパネル材による修景				
天端スコリア敷均し工		・現地採取のスコリアを、導流堤天端部に敷均す修景				

【各種対策工法の実施状況】



緑化工（挿し木）実施箇所（定着したもの）



緑化工（挿し木）試験施工実施状況



吹付工施工箇所



吹付工施工表面



化粧パネル工施工箇所



化粧パネル工施工箇所



天端スコリア敷均し工施工箇所



天端スコリア敷均し工実施箇所（天端部）に自然侵入した  
自生植物種（オンタデ）

2 試験施工結果と今後の方針

- ・見下げの景観に対しては、「天端スコリア敷均し工」の効果が高いことから、本施工として採用する。
- ・見上げの景観に対しては、「吹付工」が有効と考えられるが、個別の構造物の周辺環境に合わせた色調の選定や複数色での塗り分け等、さらに修景効果の高い工法を継続検討する。
- ・また、「緑化工」については、人為的な挿し木・播種は実現性が低いいため、対策工としては採用しないが、機械施工も含めた改良案（植物が生育するための基盤吹付による自然侵入の促進等）を検討し、試験施工を実施する。

【試験施工評価結果】

工種	総合評価	総括及び2018年度以降の方針
緑化工		<ul style="list-style-type: none"> <li>・現在の人力による対策工法（現地採取材を使用した挿し木・播種）は、実現性が低いことから対策工法としては採用しない。</li> <li>・今後は、周辺の既存植生の種子の自然侵入を促進する手法（基盤吹付による種子定着の促進等）を検討する。</li> </ul>
吹付工		<ul style="list-style-type: none"> <li>・骨材の使用による陰影・テクスチャにより周囲の景観に馴染み、耐久性などと合わせ一定の効果が得られた。</li> <li>・さらに修景効果が高い改良案（個別の構造物の立地に適した色調の選定、複数色での塗り分け、現地スコリアの吹付等）の試験検討を継続実施する。</li> </ul>
化粧パネル工	×	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面的な印象になりやすく、富士山以外の溶岩材料のため修景効果が小さい。</li> <li>・修景効果に対し耐久性や経済性が低いことから、対策工法として採用しない。</li> </ul>
天端スコリア敷均し工		<ul style="list-style-type: none"> <li>・導流堤天端部の景観改善が図られるとともに、自然侵入による緑化についても相乗効果が得られた。</li> <li>・施工性及び修景効果が高いことから、本施工として採用する。</li> </ul>

## < 参考資料 6 > 山小屋整備ガイドラインの策定

### 経緯

- ・山梨県は、富士山の特質である「神聖さ」・「美しさ」を維持するため、山小屋の外観及び標識類などの改善を進めるため、特に山小屋が連続して建ち並ぶ吉田口登山道において、「富士山吉田口登山道の山小屋整備ガイドライン（修景編）」を2016年3月に策定した。

### 「富士山吉田口登山道の山小屋整備ガイドライン（修景編）」の概要

#### 1 山小屋の修景上の課題

- ・ 景観の煩雑さを生じさせる要素の存在  
（敷地の制約のため、斜面にせり出す懸け造りで設置された施設等）
- ・ 伝統的な建築意匠や信仰に関わる要素の減少  
（石積みや屋根石が減少し、岩室に由来する富士山の山小屋の特徴が希薄化）



吉田口登山道六合目付近からの眺望



施設の配置（見上げ）

#### 2 基本方針

- 富士山の自然・景観を阻害しない施設等の修景の推進  
（建築物及び附帯設備等に関する修景基準の設定）
- 富士山の神聖な雰囲気醸成に向けた取組の推進  
（伝統的建築意匠等の継承）

【建築物に関する修景基準】

項目	修景基準
敷地割 ・規模	<ul style="list-style-type: none"> <li>・整備に当たっては、既存規模程度内での改築又は建替えのための新築とし、新たな宿舍施設の設置は認められない。</li> <li>・新たな盛土造成や懸造りを伴う改築又は建替えは原則行わない。なお、敷地割は現状維持を原則とするが、盛土造成や懸造りの解消等に資する場合は、この限りでない。</li> <li>・現状の敷地割が狭隘で、かつ公益目的に係る建築物並びに工作物の改築又は建替えのための新築で、懸造り等による方法しか採り得ない場合は、関係機関と協議の上、必要十分な修景対策を行うものとする。</li> <li>・懸造りの施設において、床裏や柱組が露出している場合には、外壁と同一の塗装またはルーバー等により景観への影響を低減するよう努める。</li> <li>・将来的に、盛土造成や懸造りを解消するよう努める。</li> </ul>
構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・構造は、木造在来軸組工法を原則とする。ただし、災害対策等の目的により構造材の一部に木材以外の材料を使用する場合など、修景上問題がないと判断できる場合には、この限りでないものとする。</li> </ul>
階数・高さ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・階数・高さは現状維持を原則とする。</li> </ul>
屋根	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋根は勾配屋根とし、勾配は2/10～4/10の範囲とする。</li> <li>・屋根形状は切妻様式とする。</li> <li>・屋根材料は鋼板など施工や耐久性、防災機能などを考慮した素材を基本とする。</li> <li>・素材(塗料)の色彩は焦げ茶色を基本とし、明度・彩度に配慮し、反射を抑えたものとする。</li> <li>・伝統的な山小屋の意匠伝承のため、屋根の置石を推奨する。この場合、石の大きさや形状、材質をできるだけ揃えるよう配慮する。</li> </ul>
軒・軒裏	<ul style="list-style-type: none"> <li>・軒裏は、屋根、または外壁の色彩との統一を図る。</li> </ul>
外壁	<ul style="list-style-type: none"> <li>・外壁は、従来からの形状を維持し、単純、簡素なものとする。</li> <li>・素材(塗料)の色彩は焦げ茶色を基本とし、明度・彩度に配慮し、反射を抑えたものとする。</li> <li>・伝統的な山小屋の意匠伝承のため、岩石を積み上げた腰壁を推奨する。</li> </ul>
開口部・ 建具	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建具の色調は、木製では生地仕上げ又は茶褐色系統、アルミ等の金属製では焦げ茶色系統とする。</li> <li>・開口部の位置及び形態は、山小屋全体の外観上の調和に配慮するとともに、室内の信仰空間の雰囲気が出山道から感じられるように工夫する。</li> </ul>
樋・配管	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樋や配管は、建物外壁または屋根、周囲の色彩との統一を図る。</li> <li>・水タンクへの配管は、可能な限り埋設するなど、周囲の環境に調和するよう配慮する。</li> </ul>

【附帯設備等に関する修景基準】

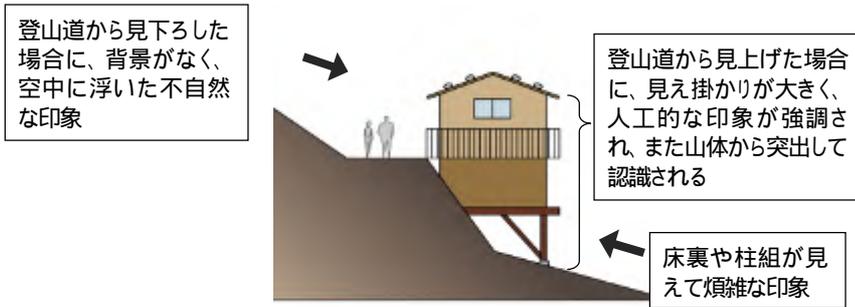
項目	修景基準
設備機器 水タンク	<ul style="list-style-type: none"> <li>・登山道等から見えないような配置・形状を基本とする。やむを得ず登山道からの見上げや見下ろしの眺望に影響を与える配置となる場合(なっている場合)は、側面や上部に外壁と色彩が統一されたルーバー(目隠し)や石囲いの設置等により、周囲の景観と調和するよう配慮する。</li> <li>・上記の配慮の有無に係わらず、建物外壁や屋根の色彩との統一を図ることとする。</li> </ul>
屋外 広告物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屋外広告物は「富士山における標識類総合ガイドライン」(富士山標識関係者連絡協議会)の基準に従うものとする。</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富士山の神聖な雰囲気の醸成に向けた以下の取組を推進する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>➢ 富士山の神聖さを伝える重要な要素の保存・継承</li> <li>➢ 建物外部から信仰とのつながりが容易に認識できる工夫</li> <li>➢ 「山小屋ミュージアム」のリニューアルや拡充 等</li> </ul> </li> <li>・冬囲い等に用いる材料についても、建物外壁や屋根、周囲の景観に調和する素材・色彩を用いるものとする。</li> </ul>

富士山の自然・景観を阻害しない施設等の修景

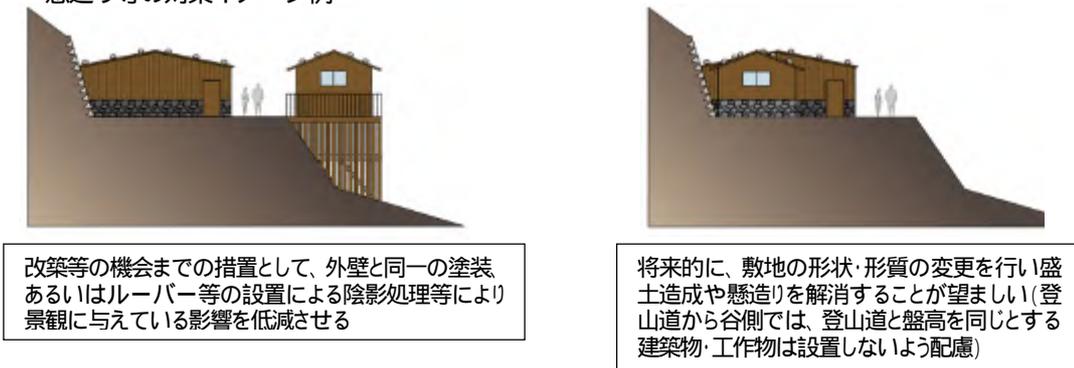
懸造り等の対策イメージ

遠景や見上げ景観において、景観を阻害する要因となっている「懸造り」(斜面にせり出すように立てる工法)や盛土造成で建てられたトイレ等の施設は、規模は小さくとも景観への影響が大きいので、将来的にこれらを解消していくことを検討。

懸造りの小屋が景観に与える影響



懸造り等の対策イメージ例



改築等の機会までの措置として、外壁と同一の塗装あるいはルーバー等の設置による陰影処理等により景観に与えている影響を低減させる

将来的に、敷地の形状・形質の変更を行い盛土造成や懸造りを解消することが望ましい(登山道から谷側では、登山道と盤高を同じとする建築物・工作物は設置しないよう配慮)

富士山の神聖な雰囲気醸成に向けた取組

富士山の山小屋の伝統的な建築意匠や信仰等に関わる要素の伝承

富士山の山小屋の簡素な建築や石積み、屋根石は、富士山の山岳環境に裏付けられた特徴的な意匠手法であり、富士山の景観と調和するだけでなく、富士山信仰を支えてきた山小屋の歴史的な営みを現在に伝えるもの。その積極的な継承によって神聖な風情・雰囲気醸成。



屋根石



腰壁石積



山小屋ミュージアム

# 情報提供戦略 ( interpretation strategy )

## 1 要旨

- 山梨県・静岡県は、巡礼路の特定等を含めた総合的な調査研究の中心的役割を担い、かつ情報発信の拠点施設として「富士山世界遺産センター」を整備し、調査・研究成果を系統的に蓄積するとともに、公開活用を推進している。
  - ・山梨県立富士山世界遺産センター開館（2016年6月） 静岡県富士山世界遺産センター開館（2017年12月）
  - ・絵画、写真・映像、文献等のデータベース化の推進・公開、山梨県・静岡県共通データベースの作成の検討 等 【参考資料7（P49）】
- 山梨県・静岡県は、「富士山世界遺産センター」を中心として、顕著な普遍的価値等の情報提供を実施するとともに、構成資産相互のつながり等に関する認知・理解を深めるために、巡礼路等に関する調査研究成果を活用し、来訪者を山麓の構成資産へ誘導する取組を進めている。
  - ・富士山世界遺産センター等における企画展、シンポジウム等の開催
  - ・モデルコース・ガイドツアーの設定、周遊ガイドマップ等の作成・配布 等 【参考資料2（P7）[再掲]】

## 2 戦略に記載した取組の方向性

### （1）調査・研究の推進及びその成果の反映

#### ア 調査・研究の実施

「富士山世界遺産センター」が中心となり、博物館及び関係市町村等との連携の下に富士山に関する調査・研究を推進する。

#### イ 調査・研究成果の還元

山梨県・静岡県は、調査・研究成果を系統的に蓄積し、公開活用に寄与する。

### （2）顕著な普遍的価値の伝達及び適切な情報提供の実施

#### ア 内容

山梨県・静岡県が中心となり、富士山の顕著な普遍的価値を伝達するとともに、保全に関する施策について適切な情報提供を行う。

#### イ 体制の整備及び人材育成

山梨県・静岡県は、情報発信の拠点施設として、「富士山世界遺産センター」の建設及び運営組織の確立を進めるとともに、関係市町村の連携の下に地域に根ざした人材として「世界遺産ガイド」等を育成する。

#### ウ 手法

山梨県・静岡県が中心となり、上記の方向性を反映したソフト面及びハード面における効果的な情報提供手法を構築する。

### 3 実施状況

#### (1) 調査・研究の推進及びその成果の反映

##### ア 調査・研究の実施

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
「富士山世界遺産センター」を中心とした調査・研究体制を確立するとともに、長期的な視野に基づき調査・研究計画の策定及び学際的な調査・研究の活動を推進する。	山梨県は、山梨県富士山総合学術調査研究として、学芸員を中心に外部研究者と共同で富士山に関する調査・研究を進めている。 静岡県は、専任の研究員を中心に巡礼路を始めとする調査研究を進めている。更に、国内外の研究者を客員研究員として招聘し、共同研究を進めるなど、調査研究体制の充実を図っている。
顕著な普遍的価値の認知・理解の状況を把握するため、来訪者への意識調査を実施する。	山梨県・静岡県は、富士山の顕著な普遍的価値等に関する理解の状況を把握するため、来訪者への意識調査を継続して実施している。

##### イ 調査・研究成果の還元

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
収集した文献及び調査・研究成果のデータベース化を検討し、それらの蓄積・公開活用を推進する。	山梨県・静岡県は、「富士山世界遺産センター」の共通データベースの作成を検討している。 山梨県は、富士山世界遺産センターにおいて、「富嶽三十六景」を始めとする富士山に関する絵画や写真・映像をデータベース化して公開している。 静岡県は、収集した文献等を体系的に集積するため、データベース化を進めている。2015年度に古文書等の電子データ化を行い、2016年度には、富士山を題材とした絵葉書2,500枚の電子データ化を開始し、一部についてWEB公開を開始した。

#### (2) 顕著な普遍的価値の伝達及び適切な情報提供の実施

##### ア 内容

##### 顕著な普遍的価値の伝達

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
巡礼路の特定により描き出した構成資産相互のつながりについて来訪者の認知・理解を促進し、山麓の構成資産へと誘導する。	山梨県・静岡県は、下方斜面における巡礼路の特定に関する調査・研究成果を踏まえ、「登山道・巡礼路の位置・経路」を活用した、山麓の構成資産を巡るモデルコースやガイドツアーの設定を行い、富士山麓への周遊を推進している。

保全の取組

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>安全・安心な登山を行うための情報提供、マナーとルールの啓発等を行う。</p>	<p>富士山における適正利用推進協議会では、外国人来訪者を含む、登山者に対する、五合目の実情に応じた安全登山の情報提供やマナー啓発の方法等について、議論を進めている。</p> <p>小山町及び関係機関は、須走口五合目における安全登山の情報提供等の充実に向けた具体策の検討を進めている。</p> <p>山梨県・静岡県は、弾丸登山の自粛要請やマナー啓発、安全・安心な登山を行うための情報提供を継続して行っており、2017年は、新たに登山日毎の混雑予想を掲載したカレンダーを作成し広報することで、登山者数の平準化に努めている。</p>

イ 体制の整備及び人材育成

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>情報発信の拠点施設として、「富士山世界遺産センター」を建設し、事業活動を担う職員の配置を進める。</p>	<p>山梨県は、2016年6月22日、「山梨県立富士山世界遺産センター」を開館し、富士山保全、調査研究及び教育普及等に携わる職員を配置した。</p> <p>静岡県は、調査研究等を担う専任の研究員を採用し教育普及等に携わる職員とともに配置した。また、関係市町や博物館等との連携を推進するため、関係市町と意見交換を行っている。</p>
<p>顕著な普遍的価値の伝達や保全の取組に関する情報提供を行うとともに、「世界遺産ガイド」等を養成する。</p>	<p>静岡市は、三保松原が持つ歴史・文化的価値や魅力を国内外に向けて情報発信する拠点として、また、松原の保全活動拠点として、2018年度中の開館を目指して「(仮称)三保松原ビジターセンター」の整備を進めている。</p> <p>山梨県・静岡県及び関係市町村が連携し、「世界遺産ガイド」を養成するとともに、スキルアップを図るため、定期的に講座を開催している。</p>

## ウ 手法

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>学校教育や富士の国(ふじのくに)づくりキッズ・スタディ・プログラム等と連携した授業・講座を実施する。</p>	<p>静岡県は、2015年度から、富士山の文化的価値の理解を促進するため、富士山を詠った短歌を作り学ぶ出張授業を県内小学校で実施している。</p> <p>山梨県・静岡県は、富士の国づくりキッズ・スタディ・プログラム(KSP)の教材を県内全小学校に配布して授業での活用を促進している。</p> <p>静岡県は、2016年に、KSPの教材等を活用し、富士山麓の小学校と遠隔地の小学校をテレビ会議で結び、富士山や郷土の歴史について学ぶ交流学习を実施した。</p> <p>山梨県・静岡県は、2018年に、NPO法人とともに、全国の小学生に幅広く学んでもらえるよう、KSPの教材をインターネット上で公開し、全国的な活用を図っている。</p>
<p>「富士山世界遺産センター」や博物館・美術館等において企画展・研究発表会等を開催する。</p>	<p>山梨県は、富士山世界遺産センターにおいて、企画展・写真展の開催、世界遺産富士山講座やシンポジウムの実施、研究紀要等の刊行を行っている。</p> <p>静岡県は、巡礼路を始めとする調査研究の成果をセミナー等で発信しているほか、和文誌及び英文誌として刊行した。</p> <p>また、静岡県富士山世界遺産センターの「企画展示室」を活用した企画展を年4～5回程度開催する予定であるほか、「研修室」を活用して研究員等が講師を務める館内講座を開始した。</p> <p>さらに、2つの世界遺産センターが共同して企画展やシンポジウムの開催、公開講座における講師の相互派遣などを行う。</p>

## < 参考資料 7 > 世界遺産センターの開設

### 概要

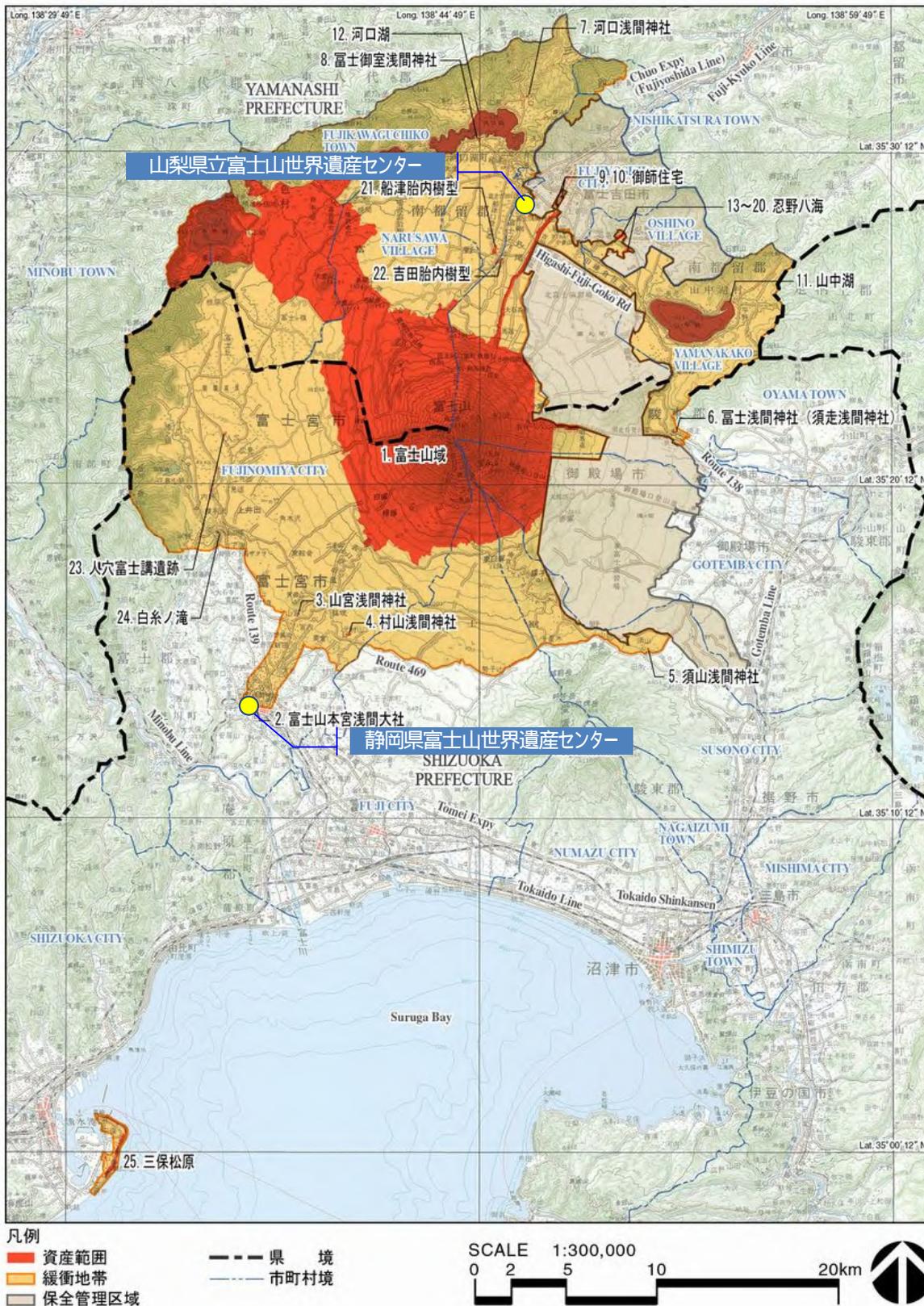
- ・山梨県・静岡県は、富士山に係る包括的な保存管理の拠点とするとともに、富士山の自然、歴史・文化に加え周辺観光等の情報提供を行うなど、訪れる多くの人々のニーズに対応する拠点施設として、それぞれ「富士山世界遺産センター」を開設した。
- ・「富士山世界遺産センター」では、顕著な普遍的価値を伝えるための展示や出前講座等での普及啓発、専任の研究員や学芸員による巡礼路の調査研究、その成果をセミナーで情報発信を行う等の積極的な情報発信を行っている。

### 取組内容

- ・山梨県は、2016年6月、富士山北麓に「山梨県立富士山世界遺産センター」を、静岡県は、2017年12月、富士山南麓に「静岡県富士山世界遺産センター」をそれぞれ開館した。

### 施設概要

山梨県	静岡県
敷地面積：27,246.59 m <sup>2</sup>	敷地面積：6,086.70 m <sup>2</sup>
延床面積：1,581.28 m <sup>2</sup>	延床面積：3,410.98 m <sup>2</sup>
< 諸室構成 >	< 諸室構成 >
・展示室 824.49 m <sup>2</sup>	・常設展示室 1151.82 m <sup>2</sup>
・図書・資料室 72.38 m <sup>2</sup>	・企画展示室 125.89 m <sup>2</sup>
・多目的ホール 47.24 m <sup>2</sup>	・図書室 63.57 m <sup>2</sup>
・会議室 52.61 m <sup>2</sup> ほか	・研修室 75.03 m <sup>2</sup>
旧富士ビジターセンター（既存施設）	・映像シアター 91.75 m <sup>2</sup>
・展示室 280.38 m <sup>2</sup>	・収蔵庫等 84.31 m <sup>2</sup> ほか

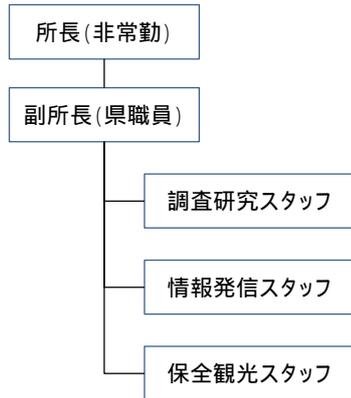


富士山世界遺産センター位置図

組織体制

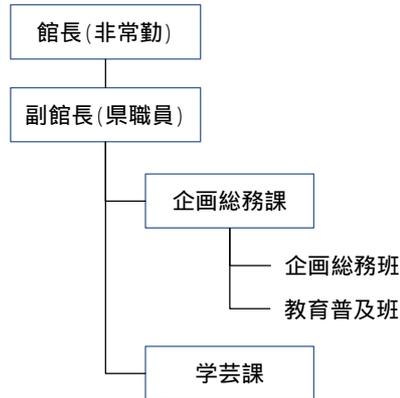
- ・「富士山世界遺産センター」における、富士山の保全や調査・研究、普及啓発に係る業務は、山梨県・静岡県がそれぞれ直接担い、施設の運営や管理に係る業務は、指定管理、民間委託等を導入し効果的、効率的な運営を行っている。
- ・このうち、県が直接担う業務に関しては、専門知識を有する研究員又は学芸員を配置、山梨県では、保全活動を行うレンジャー等を配置、静岡県では教育普及を担う教員を配置するほか、外部専門家と連携し、幅広い分野の学術研究を進めている。

組織図 ( 山梨県 )



< その他従事者 >  
指定管理者 ( 施設運営・管理業務 )

組織図 ( 静岡県 )



< その他従事者 >  
・ボランティア  
・カフェ・ショップ運営者  
・接遇、施設保守管理委託業者

施設外観



山梨県立富士山世界遺産センター



静岡県富士山世界遺産センター

c 平井広行

展示内容

- ・世界遺産富士山の価値を、「見て」、「聴いて」、「触って」体験しながら理解いただけるよう、様々な工夫をこらしている。
- ・また、学術研究の成果などを幅広く紹介するため、定期的に企画展を開催している。

【主な常設展示(山梨県)】

- ・山梨県では、豊かな自然と人々の営みが生み出した信仰と芸術、時空を超えて広がり続ける世界遺産富士山の世界が体験・体感できるよう、展示を構成している。



御中道回廊



富嶽360(さんろくまる)



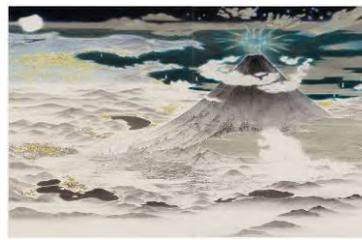
胎内ビジョン



富士山百画



広がる富士山の世界



富士北麓参詣曼荼羅図

【主な常設展示(静岡県)】

- ・静岡県では、「伝える」をコンセプトに「信仰の対象」「芸術の源泉」としての富士山の普遍的価値を、擬似登山体験や各展示を通して来訪者に伝えている。



登拝する山(擬似登山体験)



荒ぶる山



聖なる山



美しき山



映像シアター

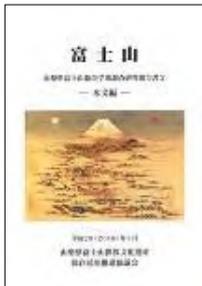


展望ホール

c 平井広行

調査研究

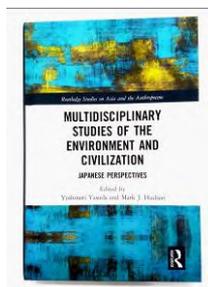
- ・総合的な調査・研究の継続のため専門の学芸員又は研究員を配置するとともに、関係市町村、外部の有識者とも連携したうえで調査研究を行っている。また、関連資料の収集・把握・充実に努めている。
- ・巡礼路の調査研究において、静岡県では、2015 年度に、富士山巡礼路調査委員会を設置し須走口登山道の調査研究を行い、2018 年度に調査報告書を刊行し、調査研究成果を踏まえたシンポジウムを開催する予定である。2017 年度からは、大宮村山口登山道の調査を開始した。
- ・学術研究において、山梨県では、「山梨県富士山総合学術調査研究委員会」を主宰し、富士山の自然環境、考古・歴史・民俗、有形文化財及び文学等の外部研究者のネットワークを構築し、富士山に関する学術研究を推進している。研究成果は3年ごとに報告書にとりまとめ、一般向けの報告会を開催している。
- ・静岡県では、研究員の調査研究成果を和文誌と英文誌として刊行することとしており、2016 年度には、日本の出版社から和文誌「環境考古学と富士山」を刊行し、2017 年度には、英国の出版社から英文誌“Multidisciplinary Studies of the Environment and Civilization”を刊行した。
- ・また、静岡県では、専任の研究員の調査研究成果を広く社会に還元するため、2015 年度から、「富士山世界遺産セミナー」を開催しており、2017 年度には、静岡市と共催で、「世界に伝えられた富士の美」、御殿場市と共催で、「文学と富士山・富士登山」をテーマとしたセミナーを行った。
- ・この他、静岡県では、2018 年3月に、ふじのくに地球環境史ミュージアムと共催で「富士山学を拓く～世界遺産富士山から読み解く人類世の自然と文化」と題した国際シンポジウムを開催する予定である。



総合学術調査研究 (山梨県)



研究紀要等の発行 (山梨県)



和文誌・英文誌の発行 (静岡県)



富士山世界遺産セミナー (静岡県)

### 情報発信・普及啓発

- ・富士山についての理解・関心及び後世に継承する気運を高めるための「出前講座」の開催等により、積極的な情報発信・普及啓発を行っている。静岡県では、2017年度11月30日現在46回、3017人に出前講座を行っており、引き続き積極的な情報発信・普及啓発を行う。
- ・積極的に教育旅行の誘致を行い、未来を担う子供たちに富士山の価値の理解促進を図っている。山梨県では、新たに開発した教育プログラム等を活用し理解促進を図っている。
- ・顕著な普遍的価値及びその適切な保存管理について、来訪者の理解を深め、案内することができる「世界遺産ガイド」の養成に積極的に取り組み、静岡県では、世界遺産ガイドを2015年度2月末時点で、247名養成し、定期的にスキルアップ講座を開催している。山梨県では57名(2017年度)の世界遺産ガイドが、来館者に対し世界遺産富士山の価値を紹介し、富士山の歴史や文化への理解と関心の向上を図っている。
- ・収集した関連資料の公開に努めており、ライブラリーを設置し一部資料については常時閲覧可能としている。また、静岡県では、富士山を題材とした絵葉書アーカイブをWEBで公開した。



出前講座の開催（静岡県）



教育旅行受け入れ（山梨県）

### 富士山の保全

- ・富士山の保全のための保全協力金の徴収や安全対策等の広報に努めており、山梨県では、富士山の環境保全や登山者の安全指導などを目的に「富士山レンジャー」を配置し、植物等の不法採取の監視や登山マナーの指導、環境教育等の活動を行っている。

### 今後の取組（計画）

- ・山梨県の御中道巡礼路調査研究において、静岡県の研究員が参加し、2つの世界遺産センターが連携した。今後、富士山に関する幅広い研究成果の共有やその普及活動等について、連携して取り組む。
- ・また、山梨県・静岡県及び関係市町村等が一体となり、来訪者の受け入れ体制を構築する。

## < 参考資料 8 > 富士の国づくりキッズ・スタディ・プログラムの実施

### 概要

- ・認定NPO法人富士山世界遺産国民会議と山梨県・静岡県は、浮世絵「富嶽三十六景」を題材とした教材を利用した授業を小学校で実施することを通じて、富士山の文化的価値を知り、「富士山」や「日本」を大切に思う気持ちを醸成することを目的としたプログラムを推進している。

### 取組内容

- ・2012年に、社会科指導用教材を開発し、山梨県・静岡県の全小学校と東京都の一部小学校に配付し、社会科等の授業において活用を図り、2015年には、より使いやすくするため教材の改定を行った。
- ・さらに2018年には、これまでに開発した教材等をデジタル化し、全国の学校現場等で幅広い活用促進を図っている。



webサイト

( <https://www.fujinokuni-kids-study.jp/> )

#### < その他提供資料 >

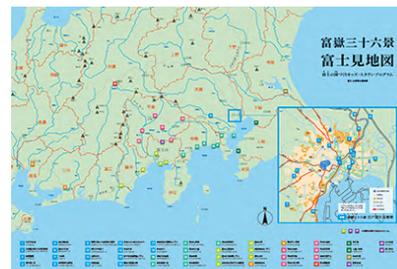
- ・指導案
- ・授業解説
- ・ワークシート
- ・浮世絵解説
- ・歴史解説 等



富嶽三十六景全データ



映像教材



富士見地図



## 危機管理戦略

### 1 要旨

- 国、山梨県・静岡県及び関係市町村は、自然災害等から、来訪者・住民の生命及び財産を保護するため、地域防災計画を始めとした各種防災計画に基づく対策を進めている。特に、突発的な噴火への対応として登山者への情報伝達等の充実を図る。また、火山噴火に起因する土砂流動による被害の軽減対策を取りまとめている。
  - ・富士山噴火時避難ルートマップの作成・多言語化、情報伝達訓練や図上訓練の実施
  - ・富士山火山広域避難計画の推進、富士山火山噴火緊急減災対策砂防計画の策定 等

【参考資料 9 (P60)】
- 山麓の構成資産における災害への対応として、「文化庁防災業務計画」等に基づき、建造物の災害予防、復旧及び入場者の安全対策を実施している。
  - ・自動火災報知設備等の防災施設の維持・管理に対する補助事業の継続
  - ・安全確保対応マニュアル等に基づく防災訓練の実施 等

### 2 戦略に記載した取組の方向性

山梨県・静岡県及び関係市町村が中心となって、来訪者に対する地域防災計画の周知等を推進する。また、関係機関が協働し、構成資産の保全のための計画を見直し、対策の強化を図る。

### 3 実施状況

#### (1) 噴火及びそれに伴う災害

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
「富士山火山広域避難計画」の考え方に基づき、噴火切迫時には避難対象者を円滑に避難させる。	<p>山梨県・静岡県は、関係市町村・山小屋組合等と連携した情報伝達訓練の実施や関係機関と連携した図上訓練等を通じて避難の実効性を高め、安全・安心の向上に努めている。</p> <p>また、国土交通省、関係自治体、火山専門家及び関係機関により構成する「富士山火山防災対策協議会」において、富士山ハザードマップの改定の検討及び火山防災に関する普及啓発を行うとともに、市町村が指定する「避難促進施設」の施設管理者等に対して噴火時の避難誘導の体制などを定める「避難確保計画」の作成支援等を行っている。</p>

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
突発的な噴火等に対する登山者への情報伝達方法、避難ルート等について、富士山火山防災対策協議会において協議し、その結果を「富士山火山広域避難計画」に反映することとしている。	山梨県・静岡県は、突発的な噴火災害に備え、観光客・登山者の噴火時の避難行動等の目安となるよう、避難ルートを示した「富士山噴火時避難ルートマップ」(山梨県・静岡県統合版)を作成するとともに、多言語化し、観光客・登山者へ周知した。
「富士山火山噴火緊急減災対策砂防計画」の策定を進めるとともに、監視・観測機器の整備及び体制の強化を図る。	国土交通省及び山梨県・静岡県は、「富士山火山噴火緊急減災対策砂防計画(基本編)」を2015年12月に公表し、現在、対策編を策定中である。

## (2) 土砂災害・落石

### ア 砂防施設の設置

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
大沢崩れにおいて、浸食防止等を目的とした対策工を実施するとともに、山麓部において土石流災害の防止を目的とした砂防堰堤等を設置し、住民の生命・財産の保全を図る。	国土交通省は、大沢崩れにおいて、現地の溶岩と類似色のコンクリートを用い、渓床対策工を継続して実施している。また、富士山山麓部の土石流危険渓流において、砂防堰堤工・沈砂地工を継続して実施している。

### イ その他の土砂災害・落石

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
土砂流出の防備のため、立木等の伐採を制限するとともに、落石等から登山者等を守るため、導流堤・防護壁等の施設を設置する。	林野庁及び山梨県・静岡県は、土砂流出防備保安林等における森林の適正な管理や治山施設の設置を継続して推進している。 山梨県は、展望景観に配慮し、導流堤・防護壁等の改修・設置を行うこととしている。

## (3) 地震

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
「静岡県地震・津波対策アクションプログラム 2013」に基づき、地震・津波対策を充実・強化するとともに、地域防災計画に基づき、地震対策を推進する。	山梨県・静岡県は、地域防災計画等に基づき地震・津波対策を推進している。

## (4) 火災

### ア 山火事

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
山火事予防運動による啓発活動を徹底する。	山梨県・静岡県は、市町村及び関係機関等に対し、予防・初期消火機材の配備を行うとともに、山火事予防運動期間において啓発活動を継続して実施している。

### イ 野焼き

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
野焼きの実施にあたっては、作業者の安全を確保し、延焼を防止する。	<p>関係市町村は、条例により作業者の安全確保及び延焼防止策を講じている。</p> <p>野焼き作業実施者は、野焼き作業検討委員会や代表者会議などを開催し、実施計画の確認や安全対策の検討などを継続して行っている。また、当日の気象条件により実施の可否を検討し、安全な実施に努めている。</p>

## (5) 山域における来訪者の安全確保

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
無線・メガホンによる来訪者・登山者への情報伝達及びパンフレット等による事前の啓発活動等を進め、山域における来訪者の安全確保を図る。	山梨県・静岡県は、来訪者の安全確保を図るため、事前の啓発活動等を継続して実施している。

## (6) 山麓の構成資産における災害

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
文化財に指定されている建造物の災害予防、復旧及び入場者の安全確保対策を行う。	<p>山梨県・静岡県及び関係市町村は、防災施設の維持・管理に対する補助事業を継続して実施している。</p> <p>建物の管理者は、マニュアルに基づく防火訓練等を継続して実施している。</p>

## <参考資料9> 富士山火山噴火に伴う土砂災害からの被害軽減

### 経緯

- ・国土交通省及び山梨県・静岡県は、火山噴火に伴う土砂災害の被害を軽減（減災）するため、噴火時に実施する緊急ソフト・ハード対策を、「富士山火山噴火緊急減災対策砂防計画（基本編）」として2015年に取りまとめた。
- ・さらに、2018年3月には、「基本編」で示した対策方針に基づいて具体的な対応を、「対策編」として取りまとめ、施設配置計画、必要資機材、役割分担、情報共有・連絡調整体制等について、対策予定箇所毎に整理するとともに、実施体制を検討することとしている。

### 「富士山火山噴火緊急減災対策砂防計画」の概要

#### 1 対象とする土砂移動現象

- ・降灰後の土石流、融雪型火山泥流、溶岩流  
（過去約3,200年間に富士山で発生した噴火を7ケースに分類、噴火シナリオとした。）

#### 2 対策の考え方

- ハード対策
  - ・段階的な目標を定めて整備を進め、噴火時等には緊急的な対策を実施
- ソフト対策
  - ・より規模の大きい噴火を含めた土砂移動現象に対し、できる限りの減災対応に取り組む
- 緊急時の減災対策
  - ・限られた時間に限られた資機材を用いて、緊急ソフト対策と緊急ハード対策を、迅速かつ効果的に実施



緊急時に実施するハード・ソフト対策



立体模型を用いた防災教育

## 開発の制御

### 1 要旨

- 山梨県・静岡県は、緩衝地帯内における開発圧力に対しては、保全に対する社会全体の機運醸成等を図るとともに、経過観察等を通じて開発圧力の早期把握に努めるなど、開発の制御の効果を促進している。特に富士山北麓地域においては、開発行為が景観の阻害要因となることを回避するための制度を創設し、望ましい土地利用の在り方を展望している。

  - ・一定規模以上の開発を実施しようとする事業者に対し、開発が景観に与える影響について調査、予測及び評価を行うことを義務付けた条例を施行（2016年6月）  
【参考資料 10（P66）】
- 2013年イコモス評価書（WHC-13/37.COM/INF.8B1, ICOMOS Evaluations of Nominations of Cultural and Mixed Properties to the World Heritage List/Fujisan (Japan) No.1418）において指摘された個別箇所の課題に対しては、地域社会（コミュニティ）が一体となって解決に向けた取組を進めた結果、計画的に改善が図られている。

  - ・忍野八海の整備、吉田口五合目諸施設の整備、三保松原の保全 等  
【参考資料 11（P68）, 参考資料 12（P71）, 参考資料 13（P73）, 参考資料 14（P77）】

### 2 戦略に記載した取組の方向性

#### （1）緩衝地帯内における開発圧力への対策

開発圧力の大きさ（規模）及び位置に対する制御に効果のある行政手続について、充実を図る。

また、緩衝地帯内における開発圧力への対策の検討にあたっては、富士山の山麓地域は、長らく人々の暮らしや生業が継続し、日本の代表的な観光・レクリエーションの目的地として利用されてきた歴史的経緯を踏まえるとともに、地域社会との合意形成に十分留意することとする。

#### （2）個別事項への対策

課題の改善に向けて、長期的視点に基づく抜本的対策を計画的に進捗させるとともに、改善効果の期待できる即効的対策についても、着実かつ段階的に実施する。

### 3 実施状況

#### (1) 緩衝地帯内における開発圧力への対策

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>開発行為にかかる行政手続を充実させ、開発の制御の効果を促進するとともに、景観計画や景観条例の制定等を通して、保全に対する社会全体の機運醸成等を図る。</p>	<p>富士吉田市及び小山町は、2016年に景観条例を施行した。これにより富士山周辺の全市町村において景観条例及び景観計画が施行・運用された。</p> <p>山梨県は、「山梨県世界遺産富士山の保全に係る景観配慮の手続に関する条例」を2016年6月に施行した。</p>

#### (2) 個別事項への対策

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>富士五湖</p> <p>「明日の富士五湖創造会議」等において、湖面の使用方法及び湖岸の修景方法を検討している。また、動力船を乗り入れようとする者に対して「航行届」の提出を義務付け、乗入れの実態を的確に把握できるようにした。</p>	<p>山梨県及び関係者等は、「明日の富士五湖創造会議」において、西湖の動力船の乗入れ規制など、既に策定した本栖湖・精進湖以外の湖面の利用方法や湖畔の修景ルールの策定に向けた協議を進めている。</p>
<p>忍野八海</p> <p>天然記念物忍野八海整備活用計画に基づき、湧水周辺の建築物その他の工作物の修景等を実施している。</p>	<p>山梨県及び忍野村は、住民等が自主的に行う施設の修景事業に対し、技術的・財政的支援を実施し、良好な景観形成に向けた取組を推進している。</p> <p>これまで、山梨県、富士吉田市、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町は、2017年度までに85件の事業を実施し、このうち、忍野村では35件を実施する見込みである。</p>
<p>白糸ノ滝</p> <p>電柱・電線の撤去等をはじめ構成資産周辺の環境改善を行う。</p>	<p>静岡県及び富士宮市は、無電柱化方針に基づき無電柱化を推進しており、2018年度までの完了を目指している。</p> <p>富士宮市は、名勝及び天然記念物白糸ノ滝整備基本計画に基づき整備事業を推進している。</p>

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>富士宮五合目諸施設 外観（色彩等）の修景に向けた関係者による協議・検討を引き続き実施する。</p>	<p>静岡県及び富士宮市は、外観（色彩等）の修景に加え、安全対策を含めた検討を関係者間で継続して実施している。</p>
<p>吉田口五合目諸施設 地元関係者から成る協議の場及び専門家から成る検討委員会を設置した。</p>	<p>山梨県は、「富士山四合目・五合目グランドデザイン」を2016年3月に策定し、これに基づき、施設所有者等が自主的な施設修景ルールの策定協議を行っている。</p> <p>また、山梨県は、老朽化した富士山五合目休憩舎を解体し、跡地を富士山や御来光の展望園地として整備するほか、国とともに五合目から山腹に延びる遊歩道における利用体験の質を高めるため、標識の整備を行う。</p>
<p>標識・案内板 山梨県は、屋外広告物ガイドラインを策定し、基準に適合しない屋外広告物の改修やガイドラインに沿った修景などの景観改善を行う事業者に対して助成を行うこととした。</p> <p>静岡県は、富士山周辺地域公共サイン整備計画を推進するとともに、広告物条例施行規則を改正し、案内板等の設置基準を強化した。</p>	<p>山梨県・静岡県は、ガイドライン等に沿った取組を進めている。</p> <p>なお、山梨県、富士吉田市、忍野村、山中湖村、鳴沢村、富士河口湖町は、住民等が自主的に行う屋外広告物の修景事業に対し、技術的・財政的支援を実施し、2017年度までに50件の事業を実施する見込みである。</p> <p>また山梨県は、特に良好な景観を創出すべき地区を景観保全型広告規制地区に指定しており、2018年4月に3地区を追加施行し、9地区とする見込みである。</p> <p>山中湖村では公共サインに関する整備ガイドラインの作成を検討している。</p>
<p>電柱 富士山周辺地域における良好な景観形成のため、無電柱化を進めている。</p>	<p>山梨県・静岡県は、無電柱化方針に基づき無電柱化を進めている。</p> <p>静岡県・静岡市は、現在、「富士山周辺地域の無電柱化推進検討部会」において検討した県道三保駒越線及び白糸の滝周辺地区の無電柱化を進めている。</p>

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>山麓に沿っての開発制御</p> <p>2016年を目途として、関係市町村は景観計画及び景観条例を策定し、建築物等の意匠・外壁の色彩等を規制することとしている。</p>	<p>富士吉田市及び小山町は、2016年に景観条例を施行した。これにより富士山周辺の全市町村において景観条例及び景観計画が施行・運用された。</p> <p>山梨県は、「山梨県世界遺産富士山の保全に係る景観配慮の手續に関する条例」を2016年6月に施行した。(再掲)</p> <p>静岡県は、緩衝地帯のうち大部分が国有林野又は市街化調整区域となっており、引き続き大規模開発を規制している。</p>
<p>三保松原</p> <p>「三保松原白砂青松保全技術会議」において、4基の消波堤のL型突堤への置き換えと養浜により砂浜を保全する対策を決定した。このうち、1号、2号消波堤を含む区間を「短期対策区間」と位置付け、具体的な対策を決定した。また、対策の実施にあたり、モニタリングを実施し、順応的に見直すこととしている。</p>	<p>静岡県は、2016年に、1号消波堤に代わる1号L型突堤の工事に着手し、2018年度末の完成を目指している。</p>
<p>「三保松原の松林保全技術会議」での提言に基づく松林の適正な保全と健全な育成に向けた具体的な対策を段階的に実施していく。</p>	<p>静岡県及び静岡市は、「羽衣の松」及び周辺老齢大木の樹勢回復に向けて、周辺土壌の調査・分析をし、最適な方法により、固結層の改善や土壌改良資材の施工による樹勢回復の取組を進めている。</p> <p>静岡市は、松林保全の人材育成機能を有する「(仮称)三保松原ビジターセンター」の整備を進めており、2018年度中の開館を目指している。</p>
<p>県道三保駒越線における無電柱化の取組方針を取りまとめ、短期的対策として道路上空の横断架空線を撤去するとともに、中長期的には道路拡幅事業に併せた無電柱化を実施する。</p>	<p>静岡市は、道路上空の横断架空線の撤去を2016年2月に完了した。また、中長期的対策にあたり、「次期無電柱化推進計画」に当区間を位置付け、電線管理者との合意に向けた協議を実施していく。</p>

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
<p>北口本宮富士浅間神社周辺地域 国道 138 号の拡幅計画を契機として、沿道景観及び歩行空間の整備などを含めた周辺地域のまちづくりの在り方について、国、山梨県、富士吉田市、地元関係者及び学識経験者による協議を実施している。</p>	<p>国、山梨県及び富士吉田市は、地元関係者及び学識経験者等により構成される検討委員会による検討を進めている。</p>

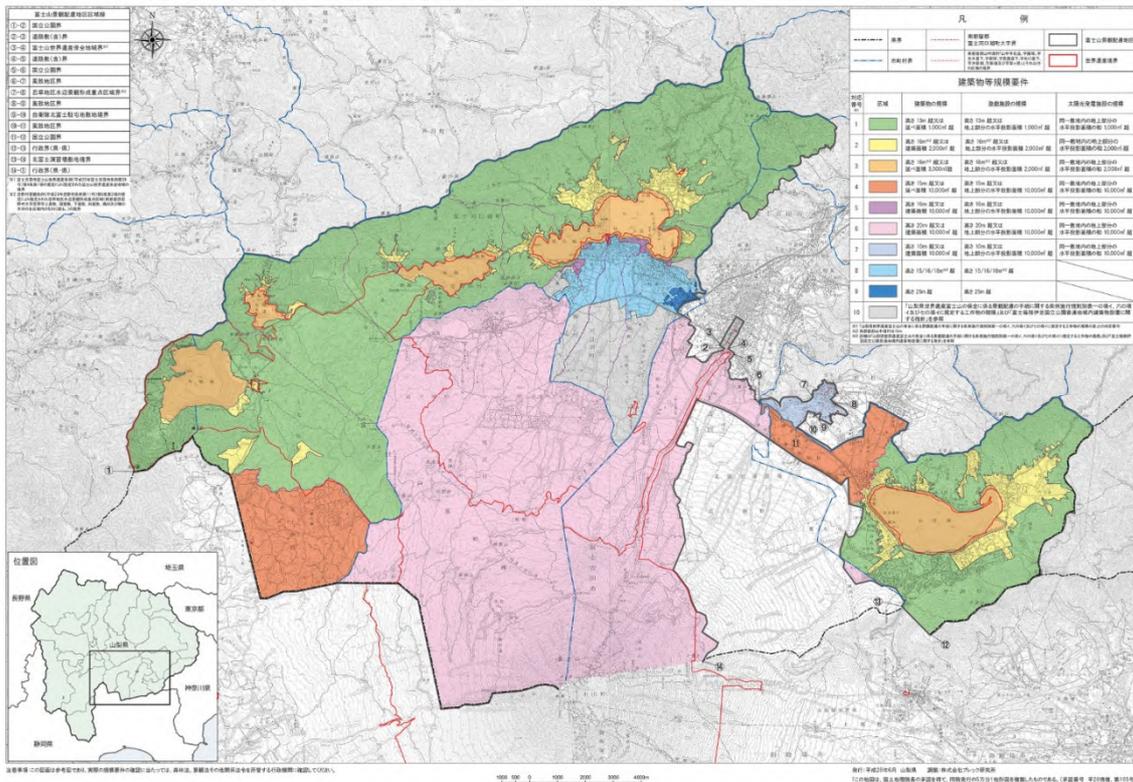
## < 参考資料 10 > 富士山の景観保全に関する条例の制定

### 概要

- 山梨県は、従前の制度において建築物等の規模及び位置等に関する行為規制が比較的緩やかな地域において、一定規模以上の建築物の新築または増築等の事業を実施しようとする事業者に対し、事業の実施が景観に及ぼす影響をあらかじめ予測・評価（景観影響評価）し、景観保全のための措置を検討することを義務づけた条例を2015年12月に制定し、2016年6月から施行している。

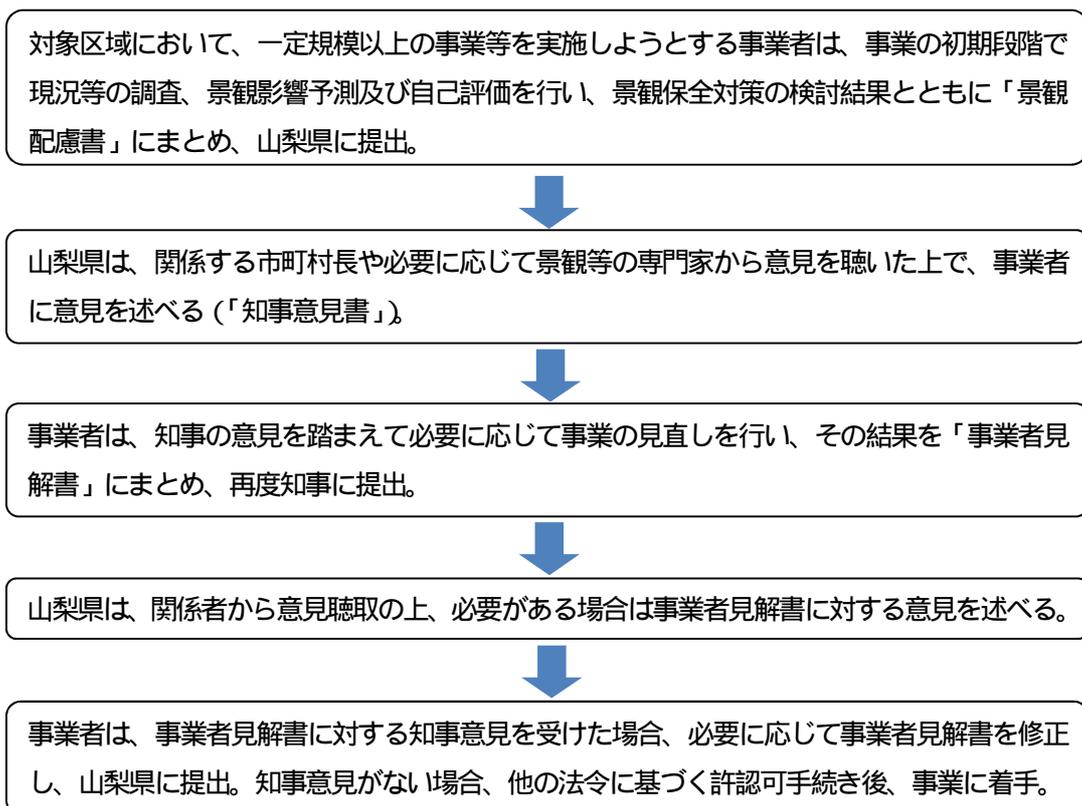
### 取組内容

- 山梨県は、条例の運用に当たって、事業者等を対象にした説明会を開催し、制度の周知を図っている。
- また、事業者の負担を軽減するため、あらかじめ景観に及ぼす影響を予測・評価するための定点観測地点を定め、毎年当該地点からの展望写真を撮影し、希望する事業者に提供している。
- さらに、事業者が提出した事業評価等に対し、山梨県知事が意見する際、景観や世界遺産分野の学識経験者から意見を聴取することにより、公正で適切な制度運用を行っている。



富士山景観配慮地区及び建築物等規模要件区域図

参考資料 10 > 富士山の景観保全に関する条例の制定



景観配慮の手続の主な流れ



景観影響予測（フォトモンタージュ）のイメージ

## 今後の取組（計画）

- ・制度の周知とともに、適正な運用を図る。

## <参考資料 11> 景観改善に関する取組

### 概要

- ・山梨県は、「世界文化遺産景観形成支援事業」により、忍野八海をはじめとする構成資産、緩衝地帯及び保全管理区域に該当する区域において、市町村や地元住民が実施する景観改善のための取組に対し、技術的・財政的支援を行っている。

### 取組内容

- ・山梨県は、2017年度までに、富士吉田市、忍野村、山中湖村、鳴沢村及び富士河口湖町とともに、主に山麓地域の建築物や看板の修景など85件の事業（うち、忍野村では35件）を実施している。

建築物及び看板の修景（忍野村）



<実施前>

<実施後>

建築物の修景（富士吉田市）



突き出し看板及び建植看板の除却、壁面看板の設置（富士吉田市）



建築物及び看板の修景（山中湖村）



屋外広告物の修景（山中湖村）



< 実施前 >

< 実施後 >

建築物及び看板の修景（富士河口湖町）



建築物の修景（富士河口湖町）



屋外広告物の撤去（富士河口湖町）



< 実施前 >

< 実施後 >

今後の取組（計画）

- ・良好な景観形成のためには、構成資産周辺の住民の景観に対する意識向上を図ることが欠かせないことから、今後とも啓発活動や支援活動を継続して実施する。

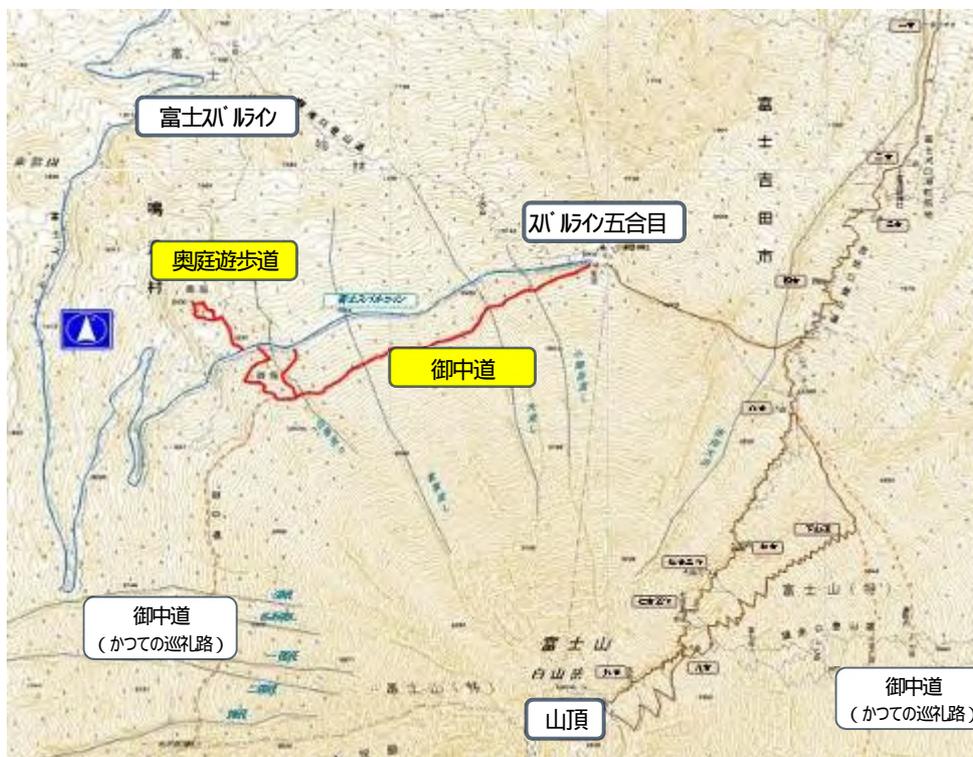
## <参考資料 12> 吉田口五合目周辺の環境改善

### 概要

- ・吉田口五合目周辺地域は、富士講隆盛期（江戸中期以降）においては富士山信仰（中道巡り）の巡拝拠点であり、交通基盤の発達や富士山への来訪形態の変化に伴い、現代では富士山頂を目指す登山者のうち約6割が利用する行動起点となっているほか、国内外から多数の人々が訪れる観光地となっている。
- ・これらの来訪者の支援施設として、インフォメーション等を備えた管理センターのほか、複数の売店等が立地し、かつての富士山信仰の姿が認識しにくくなっている。
- ・このため山梨県は、世界遺産富士山にふさわしい景観の形成、来訪者の安全性の向上及び質の高い利用体験ができる場・空間の実現などを目指し、2016年3月に「富士山四合目・五合目ランドデザイン」を策定した。

### 取組内容

- ・山梨県は、吉田口五合目周辺の景観形成や来訪者の利用分散、さらに利用体験の質の向上等を目的に、富士スバルライン五合目において老朽化した施設を解体し、跡地を展望園地として整備する事業のほか、五合目周辺の遊歩道において景観や多言語利用に配慮した標識の再整備事業を実施している。



吉田口五合目周辺環境改善事業位置図

## (1) 五合目園地整備

- ・現在の吉田口五合目では、富士山を遥拝する場合に必ず人工構造物が視界に入り、富士山の荘厳な美しさを感じることができない。加えて、写真撮影に適した場所が狭く、多くの来訪者が道路にはみ出すなど、安全上の懸念も大きい。
- ・このため山梨県は、老朽化し景観を損なっている休憩所施設を解体した上で、多くの来訪者が富士山の神聖さや美しさを感じることができるよう、富士山の山体や御来光を展望する園地として整備する。



<実施前>

<実施後(イメージ)>

## (2) 奥庭遊歩道標識整備

- ・山梨県は、来訪者の分散化を進めるため、「奥庭遊歩道」において、老朽化し、景観を阻害している標識を再整備し、英語やピクトグラムを用いたわかりやすい解説を行うことにより、国籍を問わず富士山の魅力を体験できる場の形成を図っている。
- ・また、環境省は、「御中道」(かつての巡礼路であった御中道のうち、遊歩道として山梨県が整備・管理する区間)において、同様の標識整備を行っている。



解説標識 <実施前>

解説標識 <実施後(イメージ)>

## <参考資料 13> 三保松原の保全

### 概要

- ・三保松原は、白砂青松の良好な風致景観と一体となった富士山を展望できる景勝地である。
- ・静岡市は、2014年に策定した「三保松原保全活用計画」に基づき、「価値を守りつなげる」、「価値を磨き上げる」、「価値を広く伝える」を基本方針として、「松原の保全」、「砂嘴の保全」、「風致景観の保全」の保全指針等の下に、静岡県及び関係機関や地域住民等と緊密に連携し、対策を実施している。

### 取組内容

- ・2016年1月以降に進展した代表的な取組について、以下に記載する。

### (1) 海岸の景観改善

- ・芸術作品に描かれた当時の「海、砂浜、松林」により構成される海岸景観の復活を目指し、施設に頼ることのない土砂供給の回復による海岸保全の実現までの間の措置として、景観上望ましくないと考えられた4基の消波堤を海浜の風致景観に配慮した構造物へと段階的な置き換えを進めていく。
- ・現在は、1号消波堤に代わる1号L型突堤の整備と、サンドリサイクル養浜を年間5万 $m^3$ に増量するための試行をしている。
- ・1号L型突堤は、学識者の技術的助言を得ながら水理模型実験や詳細設計を2016年10月末に完了した。同年11月から函体製作に着手し、2017年11月に完了。同月より現地海岸において、函体の据付け工事に着手している。2018年4月からは縦堤の被覆ブロックの製作に着手し、8月から現地海岸において据付け工事を行い、2019年3月の完成を目指す。
- ・今後も、「三保松原景観改善フォローアップ会議」を開催し、対策の効果・影響等の検証と計画の順応的な見直しを行い、効率的・効果的な対策の推進を図っていく。



## (2) 松林保全対策

松林を守り、育て、活かす仕組みづくり・人づくり

- ・地域社会が一体となって松林の保全活動を協働で進めていくための組織として、「三保松原保全センター（仮称）」の設立に向けた取組を進めている。
- ・「三保松原保全センター（仮称）」は、保全に関する情報収集・発信、保全活動の支援、人材育成及び保全対策の実施等の機能を担うこととしており、静岡市が整備を進めている三保松原ビジターセンター（仮称）の開館に合わせて、2018年度内の設立を目指している。

マツの生育環境の改善

- ・土壌の固結層が根や菌根の生育を阻害し、「羽衣の松」の樹勢の衰えの一因であることが判明したため、「羽衣の松」及び周辺の老齢大木エリアを対象とした土壌改良に取り組んでいる。
- ・「羽衣の松」の土壌の通気性、透水性の改善を図る緊急対策として、2016年3月に土中の固結層を水圧により穿孔する対策等を実施した結果、新芽の伸長量が増加するなど、一定の改善の兆しが見られた。
- ・周辺の老齢大木も含めた根本的な対策へ移行するために、同年12月、土壌の固結層の生成箇所と原因を特定する土壌調査を実施し、2017年2月に、「羽衣の松」及び周辺の老齢大木の一部に限定して、木炭と菌根菌による土壌改良を実施した。
- ・2017年10月、土壌改良の効果を確認するためのモニタリングを行った結果、樹勢の回復や根系の状況が改善していたことから、2017年度も引き続き同様の土壌改良を実施し、継続してモニタリングを実施していく。

マツ材線虫病の早期微害化

- ・マツ材線虫病による松枯れ被害を減少させるため、松林への薬剤散布や樹幹への予防剤注入、被害木の伐倒・除去を徹底することで、マツ材線虫病による伐倒本数が2015年度の133本（被害率3.92本/ha）から2016年度には59本（被害率1.74本/ha）、2017年10月時点で伐倒本数10本（被害率0.29本/ha）と減少している。
- ・2017年度は、最終的に目指していたマツ材線虫病による被害率1本/ha以下を達成する見込みであり、「三保松原の松林保全技術会議」で提言された「薬剤に頼らない管理」を実現するため、適切な管理方法について検討していく。

## (3) 道路の景観改善

道路の無電柱化

- ・速効的対策として実施した横断架空線の撤去については、2016年2月に完了した。また、抜本的対策として実施する無電柱化については、道路の4車線化事業（街路事業）に併せて実施することとしており、2016年度に折戸2工区、折戸3工区及び三保1工区の都市計画道路の変更手続きを実施した。折戸2工区については、無電柱化の実施に向け、優先合意箇所として、次期無電柱化推進計画へ位置付ける予定である。

### 三保半島景観まちづくり推進業務

- ・2014 年度に策定した「三保半島景観形成ガイドライン」に基づき、三保駒越線、羽衣海岸線、塚間羽衣線の3路線において、富士山の眺望景観に配慮した道路整備及び沿道整備を進めている。
- ・具体的には、屋外広告物・景観の各条例に基づく「広告景観整備地区」及び「景観計画重点地区」の指定に向け、地元関係者との意見交換会を実施し、「屋外広告物整備基準」及び「景観形成基準」の作成を進めている。

【検討区域】



【目指す景観イメージ】



#### (4) 三保松原ビジターセンター

- ・静岡市は、三保松原が持つ価値や魅力を伝え、多くの人が集い交流し、未来へと受け継ぐ拠点として、また、松原保全の活動拠点として、三保松原ビジターセンター（仮称）の建設と周辺整備を進めている。

##### ビジターセンター概要

施設規模	敷地面積：3,238.53 m <sup>2</sup> 建築面積：824.50 m <sup>2</sup> 延床面積：1,143.73 m <sup>2</sup>
機能	展示機能、観光情報発信機能、松林保全センター機能など
諸室構成	1階：展示室、通り土間、エントランスホール、ミュージアムショップなど 2階：図書・体験展示コーナー、多目的会議室、松原保全センターなど
スケジュール	2018年2月 建設工事着手 2019年3月末 開館予定

##### 配置図



整備前（2015年1月撮影）



整備後（イメージ）

##### 外観イメージ



## <参考資料 14> 北口本宮富士浅間神社周辺地域の整備

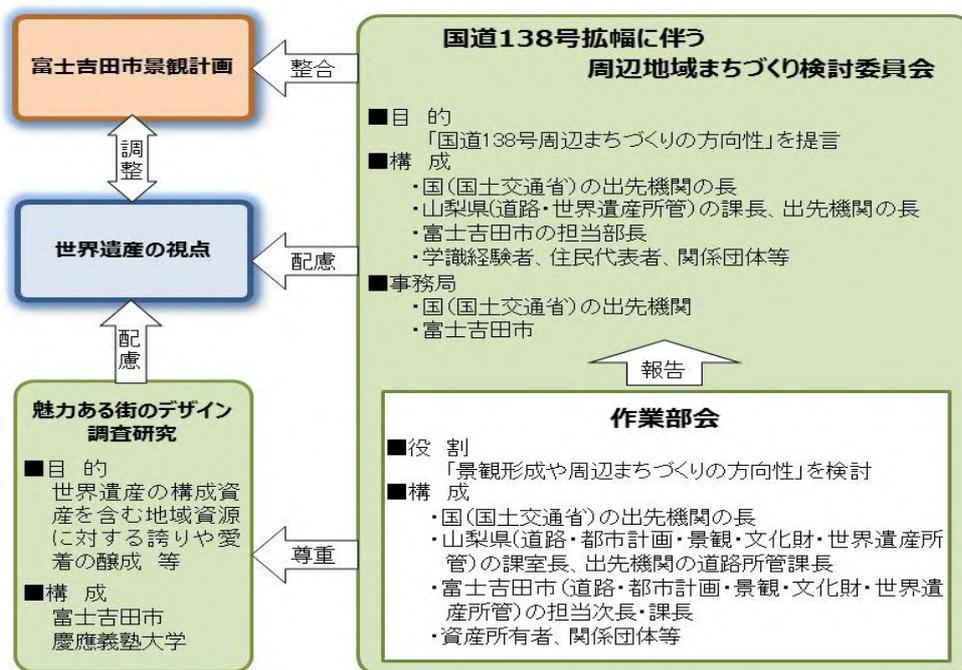
### 概要

- ・北口本宮富士浅間神社（以下、「浅間神社」という。）境内の北側を通過する国道 138 号は、現在の神奈川県、静岡県と山梨県を結ぶ中世からの主要道であり、御師住宅が並んだ富士道から吉田口登山道に続く富士山信仰の巡礼路として使用された歴史的な道である。
- ・国土交通省は、国道 138 号の慢性的な渋滞解消や歩行者の安全確保を目的に、道路の拡幅<sup>1</sup>を計画している。

### 取組内容

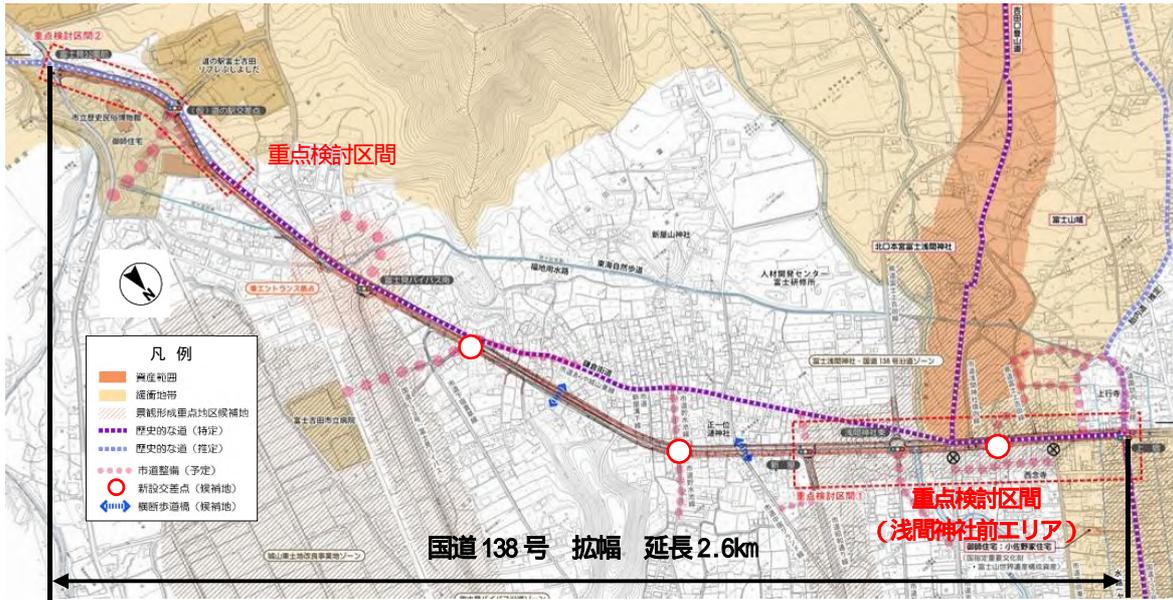
- ・2013 年度から、国土交通省、山梨県、富士吉田市、学識経験者及び地元関係者から構成される「国道 138 号拡幅に伴う周辺まちづくり検討委員会」（以下、「検討委員会」という。）において、御師住宅と浅間神社等との関係性・つながりへの配慮、景観の保全と自然・歴史資源の活用等、幅広い観点から、整備の方向性を検討している。
- ・富士吉田市は、慶應義塾大学と連携し、地元住民等と意見交換等を踏まえながら、親しみと誇りを持ちうるような都市空間の整備を検討している。

### 検討体制



<sup>1</sup> 国道 138 号上宿交差点から富士見公園交差点前までの約 2.6km を現行 2 車線幅員 9.5m から 4 車線幅員 24.0m に拡幅整備する。

事業区間全域図



検討状況

- ・検討委員会は、整備区間のうち、浅間神社前を「重点検討区間」と位置付け、沿道まちづくりと一体的に整備することとしている。

<p>&lt;重点検討区間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道 137 号～浅間神社の安全な歩行回遊動線の形成</li> <li>・ 拡幅に伴う沿道空間との一体的整備</li> <li>・ 浅間神社を核とした落ち着きと風格のある道路空間の形成</li> </ul>	<p>&lt;道路景観形成方針&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ デザインの統一感による一体的な空間の形成</li> <li>・ 歴史・文化と豊かな自然環境の調和</li> <li>・ 回遊性・快適性に配慮した歩行環境の実現</li> </ul>
--	---

魅力ある街のデザイン調査研究



「まちを知り、考える まちづくり勉強会」



講演会・シンポジウム



西念寺大門の魅力ある道づくりプロジェクト



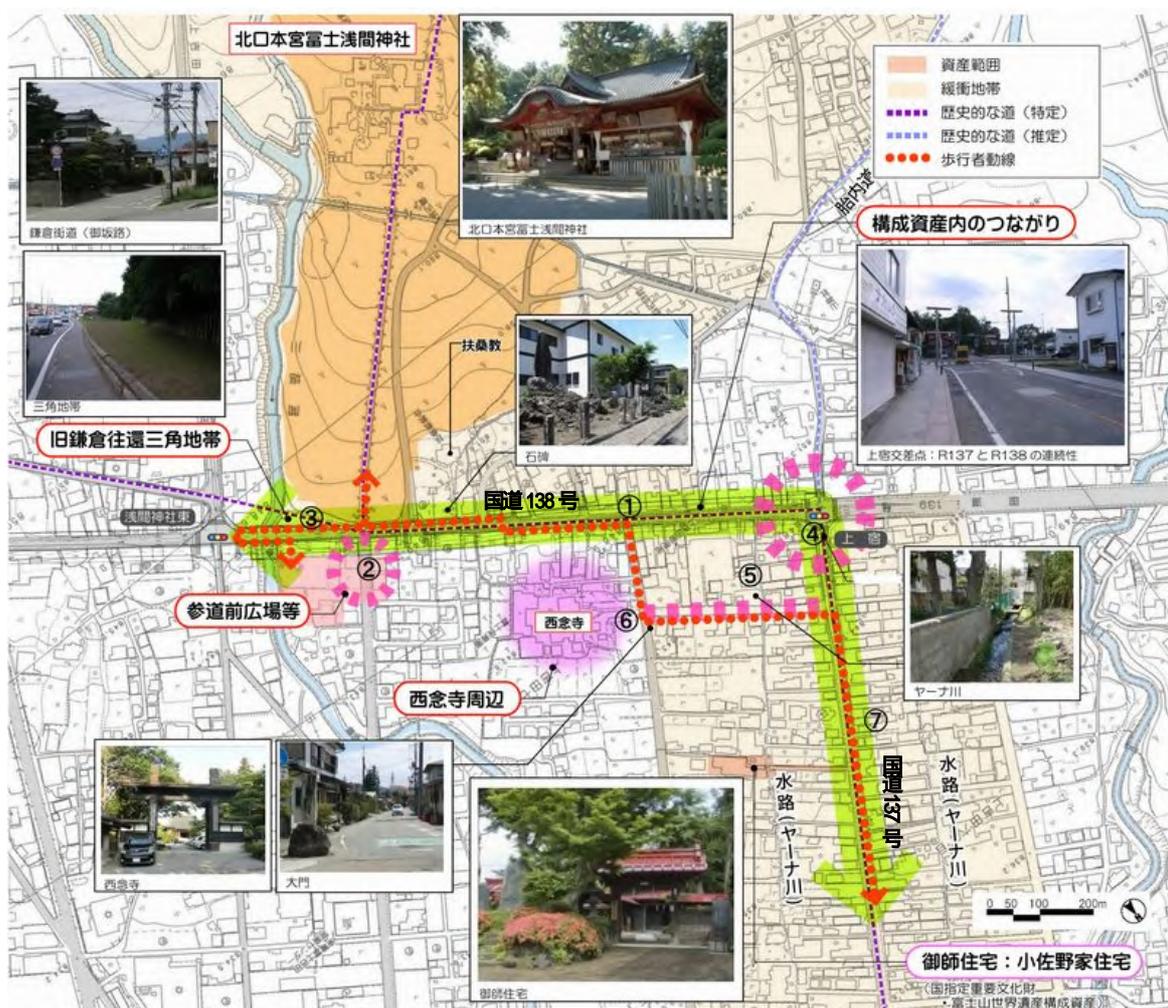
まち歩きを楽しくする案内板作成

- ・第37回世界遺産委員会の決議文は、「構成資産間の相互の関係性が強化されるべき」であり、「神社、御師住宅、巡礼路の相互の関係性は明確に示されるべき」としていることから、検討委員会（作業部会）は、世界遺産の視点からの対応方針を以下のとおり検討している。

対応方針	
構成資産間のつながり	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 御師住宅から浅間神社に至る参詣路を、歴史資料等を踏まえて、来訪者が構成資産のつながりを感じながら歩けるようにするために、相互の物理的な連続性を考慮した手法について工夫する必要がある。</li> <li>○ そのため、富士山駅から御師住宅を通り浅間神社へ至る経路を「歴史的な道」と「実際に来訪者が歩く道」に分けて検討し、国道137号と国道138号の歩行環境の統一を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国道137号の既設歩道舗装である自然石舗装を国道138号の一部に用いる。</li> <li>・ 富士山駅から浅間神社まで統一した説明・サイン、ベンチ等を設置する。</li> </ul> </li> </ul>
参道前広場等	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 浅間神社前の道路は、登拝の前に富士講の人々が同社に参詣する際に待機した場所という歴史性を踏まえる必要がある。</li> <li>○ そのため、浅間神社参道前の道路北側に、来訪者が歴史性を感じられるたまり空間（小広場）を設置する。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 浅間神社鳥居、参道の荘厳な歴史性を感じられる視点場（スポット）とする。</li> <li>・ 休憩施設や説明版を整備し、おもてなしに配慮した設えとする。</li> </ul> </li> </ul>
旧鎌倉街道三角地帯	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 浅間神社周辺を中心に、国道138号の歴史的景観の維持・再生・改善に配慮する必要がある。</li> <li>○ 2015年2月に策定された北口本宮富士浅間神社整備活用構想において、「旧鎌倉街道であった箇所であり、旧道にふさわしい整備を行い、サインを設置する」としている。</li> </ul>
上宿交差点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 胎内道に向かう道路を確保する必要がある。</li> <li>○ そのため、周辺の歴史的資源と巡礼路の関係性を今に伝える歩行環境の形成を図る。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 胎内道との連続性に配慮した歩行ネットワークを維持、形成するための説明・誘導サイン等を設置する。</li> </ul> </li> </ul>
ヤーナ川	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 拡幅予定道路を横断して国道137号と平行に御師住宅の敷地内を流れる、精進潔斎に使用された水路（ヤーナ川）を維持する必要がある。</li> <li>○ そのため、国道138号とヤーナ川との交差部には、水辺空間（水路の流れを感じる広場等）の形成を図る。</li> </ul>
西念寺周辺	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 拡幅予定道路両側の区画（町割）を維持することにより、16世紀以降の上吉田の御師町形成の歴史的景観の維持・再生・改善に配慮する必要がある。</li> <li>○ そのため、現状の地域の生活環境に配慮しつつ、大門を活用した歩行空間の形成を図るなど、歴史的景観の維持・再生に配慮した土地利用、動線計画を検討する。</li> </ul>
まちなみ整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 国道137号の両側の区画（町割）を維持することにより、16世紀以降の上吉田の御師町形成の歴史的景観の維持・再生・改善に配慮する必要がある。</li> <li>○ そのため、今後、富士吉田市景観計画に基づく景観形成重点地区として、地域との連携を図りながら、策定中の富士吉田市歴史文化基本構想に沿った景観形成指針・ルールづくりを検討するなど、良好な景観形成を進める。</li> </ul>

<sup>2</sup> 西念寺の参道。「大門（塔中）」は明治期まで西念寺の領地であり、惣門から正門まで参道が形成され、江戸時代には火祭りの神輿の巡行経路でもあった。

重点検討区間（浅間神社前エリア）



今後の取組（計画）

- ・ 拡幅事業により改変が予想される道路景観及び沿道景観については、コンピュータ・グラフィックスやフォトモンタージュ等による景観予測手法による影響の程度を確認・評価し、具体的対策に反映させる。

# 経過観察指標 ( monitoring indicators ) の拡充・強化

## 1 要旨

- 山梨県・静岡県及び関係市町村は、「ひとつの存在 ( an entity )」及び「ひとつ ( 一体 ) の文化的景観 ( a cultural landscape )」としての管理手法を反映した保存・活用の施策の実施状況を把握するために、「包括的保存管理計画」に定めた観察指標に基づく経過観察を毎年実施している。さらに、富士山世界文化遺産協議会は、観察結果を毎年評価し、各種施策が有効に実行されていること、資産及び周辺環境に対する負の影響がないことを確認している。
  - ・観察結果及び評価を記載した年次報告書の作成

【参考資料 15 ( P84 )】
- 特に、構成資産及び緩衝地帯の範囲内に設定した 36 箇所の定点観測地点から、展望景観の変化に関する観察を実施し、負の影響が認められないことを確認している。
  - ・観察結果を年次報告書へ記載。

## 2 戦略に記載した取組の方向性

### ( 1 ) 「信仰の側面」・「審美的な側面」を反映した指標の拡充・追加

#### ア 展望景観の定点観測地点の追加

顕著な普遍的価値に直接関係する 2 つの展望地点 ( 本栖湖北西岸の中ノ倉峠、三保松原 ) のほか、構成資産及び緩衝地帯の範囲内に新たに複数の展望地点を設定し、定点観測によって展望景観の状態を把握する。

#### イ 富士山信仰に関わる宗教行事の実施状況の把握

富士山信仰に関わる宗教行事の実施状況及び後世への継承の状況を把握する。

#### ウ 来訪者の意識調査の実施

富士山の顕著な普遍的価値及び構成資産相互のつながりに関する来訪者の理解の状況を把握する。

#### エ 上方の登山道の収容力に関わる指標の設定

富士山の上方の登山道の収容力の調査研究を行い、多角的な視点に基づく複数の指標を設定する。

### ( 2 ) 各種戦略・方法等の実施状況の把握

各種戦略・方法等に定めた課題の解決・改善のための対策の実施状況を継続的に把握し、評価・見直しを行っていくため、定期的かつ体系的な経過観察を実施する。

### 3 実施状況

#### (1) 「信仰の側面」・「審美的な側面」を反映した指標の拡充・追加

##### ア 展望景観の定点観測地点の追加

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
2つの主要な展望地点（本栖湖北西岸の中ノ倉峠、三保松原）に加え、34ヶ所を新たな観測地点として選定し、展望景観の変化について定点観測を行う。	富士山世界文化遺産協議会は、富士山包括的保存管理計画に定めた観察指標に基づき、モニタリング結果をとりまとめた年次報告書を毎年度作成し、評価を実施している。  なお、2015年度及び2016年度においては、資産及び周辺環境に対する負の影響は認められていない。

##### イ 富士山信仰に関わる宗教行事の実施状況の把握

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
富士山信仰に関わる宗教行事の実施状況を把握する。	毎年度調査を行い、結果を年次報告書に記載している。

##### ウ 来訪者の意識調査の実施

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
顕著な普遍的価値及び構成資産相互のつながりに関する来訪者の理解の状況についてアンケート調査を行う。	毎年度調査を行い、結果を年次報告書に記載している。

##### エ 上方の登山道の収容力に関わる指標の設定

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
上方の登山道の収容力に関わる指標を設定する。	3年間の収容力に関する調査研究結果を踏まえ、望ましい富士登山の在り方の3つの視点ごとに、合計11項目の指標及びその目標水準を検討し、富士山世界文化遺産学術委員会の助言や地元関係者の意見を得ながら、富士山世界文化遺産協議会において承認を得ることとしている。

## ( 2 ) 各種戦略・方法等の実施状況の把握

戦略に記載した対策の概要	進捗状況
経過観察を実施し、対策の定期的な評価・見直しを行う。	<p>富士山世界文化遺産協議会は、富士山包括的保存管理計画に定めた観察指標に基づき、モニタリング結果をとりまとめた年次報告書を毎年度作成し、評価を実施している。</p> <p>なお、2015年度及び2016年度においては、資産及び周辺環境に対する負の影響は認められていない。(再掲)</p>

## <参考資料 15> 2016 年度経過観察指標に係る年次報告書（抄）

「資産及び周辺環境の保護」に関する観察指標（抜粋）

資産及び周辺環境に対する負の影響		観察指標	指標の測定内容・手法	周期	観察記録主体	2016 年度の結果	2015 年度の結果	コメント
開発・都市基盤施設の整備による影響	1 都市基盤施設の整備による影響	a)電線の地中化延長	年度末の総延長距離(km)累計	毎年	山梨県 静岡県	59.00km	57.90km	計画的に事業を進めている。
	2 酸性雨	b)大気汚染に係る環境基準達成率(二酸化硫黄(SO <sub>2</sub> )、二酸化窒素(NO <sub>2</sub> ))	SO <sub>2</sub> 、NO <sub>2</sub> の1日平均値の最大値	毎年	山梨県 静岡県	SO <sub>2</sub> 0.005ppm NO <sub>2</sub> 0.037ppm	SO <sub>2</sub> 0.008ppm NO <sub>2</sub> 0.031ppm	環境基準を超える箇所はない。
	3 気候温暖化	c)植生調査	富士山山頂周辺の平均植生率	おおよそ5年	環境省	-	1.5%	次回調査時に2015年度の結果と比較する。
自然環境の変化	4 野生動物及び病虫による影響	f)森林の病虫獣害による被害面積	病虫獣害による被害面積	毎年	林野庁 山梨県 静岡県	病虫害 100.9ha 獣害 101.6ha	病虫害 99.6ha 獣害 202.33ha	野生動物侵入防止柵設置等の対策を実施
	5 噴火	g)火山活動の観測	噴火警報 火口周辺警報の発表件数	随時	気象庁 山梨県 静岡県 試験研究機関	0件	0件	大きな変動はない。防災訓練を行い、情報伝達などの確認を行った。
	8 自然災害による建造物等や景観への影響	j)文化財き損届件数	受理件数	毎年	山梨県 静岡県 市町村	3件	1件	経年劣化による破損があったが、修理済み。
自然災害	9 火災による景観への影響	l)森林の火災被害面積	火災による被害面積	毎年	林野庁 山梨県 静岡県	0ha	0ha	
	10 来訪者増加による建造物等や景観への影響	m)主要地点への来訪者数	年間の来訪者数	毎年	山梨県 静岡県 市町	表1		若干の増減はあるが、主要地点合計はほぼ横ばいで推移。

表1 主要地点への来訪者数

[単位：人]

年	西湖・精進湖・本栖湖周辺(暦年)	富士山本宮浅間大社周辺	山中湖・忍野八海周辺(暦年)	富士吉田・河口湖・三ツ峠周辺(暦年)	白糸ノ滝	三保松原	合計
2014	2,161,462	1,452,995	896,562	5,852,708	548,627	1,013,220	11,925,574
2015	2,175,052	1,345,562	890,294	5,697,638	494,261	767,799	11,370,606
2016	2,171,061	1,364,648	943,217	5,937,027	477,387	865,045	11,758,385

「各構成資産及び構成要素の保護」に関する観察指標 ( 抜粋 )

資産及び周辺環境に対する負の影響		観察指標	指標の測定内容・手法	周期	観察記録主体	2016年度の結果	2015年度の結果	コメント
各構成資産	1 建造物における火災	a)防災設備の点検状況	防火設備の点検結果による不良件数	毎年	所有者管理団体	1件	0件	修理済み。
	2 建造物をはじめとする構成資産及び構成要素の劣化	b)建造物をはじめとする構成資産及び構成要素の保全状況	巡視結果による不良件数	毎年	山梨県 静岡県	1件	0件	北口本宮富士浅間神社の修繕計画を検討する。
展望景観	4 景観変化	d)定点観測地点からの展望景観の変化	視点場からの展望景観の変化 (参考資料1)	毎年	山梨県 静岡県 市町村	変化なし	変化なし	展望景観からの負の影響は認められない。

「顕著な普遍的価値の伝達」に関する観察指標 ( 抜粋 )

観察指標	指標の測定内容・手法	周期	観察記録主体	2016年の結果	コメント
a)富士山に関する研修会等実施状況	開催年月日、行事名称、参加者数など	毎年	山梨県 静岡県 市町村	表5 (略)	富士山への理解を深めるため、学校単位での富士山検定や出前講座などを実施し、顕著な普遍的価値の後世への継承を積極的に行っている。
b)環境保全活動の実施状況	開催年月日、行事名称、参加者数など	毎年	山梨県 静岡県 市町村	表6 (略)	地域コミュニティによる環境保全活動の促進が積極的に行われている。
c)富士山信仰に関わる宗教行事の実施状況	神事名、参加者数、行事内容など	毎年	山梨県 静岡県 市町村	表7	地域住民と連携を図りながら、行事を継続している。
d)パンフレット・ホームページによる情報提供数	出版物の名称、規格、部数、ホームページの名称、アドレス、閲覧件数	毎年	山梨県 静岡県 市町村	表8, 9 (略)	富士山世界文化遺産協議会のホームページを改修し、情報提供の内容を充実させた。また、同協議会や富士山周辺の地元市町村等が作成・増刷した印刷物を研修会等で配布し、情報提供を継続している。
e)顕著な普遍的価値に関する理解の状況	アンケート調査による富士山の顕著な普遍的価値を理解した割合(富士山の文化的伝統)	毎年	山梨県 静岡県 市町村	37.9%	来訪者の約4割が、普遍的価値を理解していた。世界遺産センターの開館による情報発信の強化、研修会等の開催により、理解促進活動を継続していく。

表7 富士山信仰に関わる宗教行事の実施状況

構成資産名	所在地	神事名	参加者数	伝承状況	変容内容
河口浅間神社	山梨県富士河口湖町	例大祭	50名	旧来通り	
		太々御神楽祭	50名	旧来通り	
北口本宮富士浅間神社	山梨県富士吉田市	夏越大祓式・開山前夜祭	800名	旧来通り	
		開山祭	80名	旧来通り	
		鎮火祭	700名	旧来通り	
富士山本宮浅間大社	静岡県富士宮市	初申祭	70名	変容あり	御嶽を渡御する御神率は、明治初期以降途絶えていたが、2006年大宮鎮座1200年を記念して、山宮のお迎え坂から山宮浅間神社の間で復興
		開山祭	120名	変容あり	以前は7月7日、その後、他の登山口の開山に合わせて7月1日となったが、2014年から、静岡県の開山日に合わせて7月10日に開催
		閉山祭	70名	変容あり	2013年までは9月7日、2014年以降は9月11日開催
		富士山山頂奥宮開山祭	5名	旧来通り	
		富士山山頂奥宮閉山祭	10名	旧来通り	
山宮浅間神社	静岡県富士宮市	初申祭	86名	変容あり	2006年の浅間大社遷座1200年記念祭より復活した
		例祭	57名	旧来通り	
村山浅間神社	静岡県富士宮市	開山祭	210名	変容あり	
		閉山祭	80名	変容あり	
須山浅間神社	静岡県裾野市	開山祭	60名	旧来通り	
		閉山祭	50名	旧来通り	
富士浅間神社	静岡県小山町	開山祭	102名	旧来通り	
		閉山祭	79名	旧来通り	

## 総括

- (1) 「3『資産及び周辺環境の保護』に関する観察指標」について
- ・自然災害や環境変化に対して、砂防施設や防護柵設置など事前の対策や、伐倒処理など事後の対策を実施しているため、大きな被害には至っていない。
  - ・資産及び周辺環境に対する負の影響が確認又は予見されていない。
- (2) 「4『各構成資産及び構成要素の保護』に関する観察指標」について
- ・構成資産のパトロールや点検を定期的に行い、き損や施設に不備があった場合は、修理等速やかに対応する体制づくりをしている。
  - ・定点観測地点からの展望景観について、写真比較による観察を開始した。
  - ・各構成資産及び構成要素に対する負の影響が確認又は予見されていない。
- (3) 「5『顕著な普遍的価値の伝達』に関する観察指標」について
- ・富士山に関する研究会や環境保全活動など、地域コミュニティによって積極的に行われている。

参考資料 1 定点観測地点からの展望景観の変化



定点観測地点（36箇所）からの展望景観の変化観察例

	(1) 中ノ倉峠 区分、	
撮影地点		
年度	2016 年度	2015 年度
写真	<p style="text-align: center;">撮影日：2016年11月17日</p>	<p style="text-align: center;">撮影日：2015年11月6日</p>
景観変化	展望景観に負の影響は認められない。	

区分：各方面から富士山を展望する地点

区分：富士山から構成資産及び緩衝地帯を展望する地点

区分：構成資産から当該構成資産及びその周辺地域を展望する地点

年次報告書の全文は、下記 URL 参照のこと

<http://www.fujisan-3776.jp/info-lib/monitoring.html>